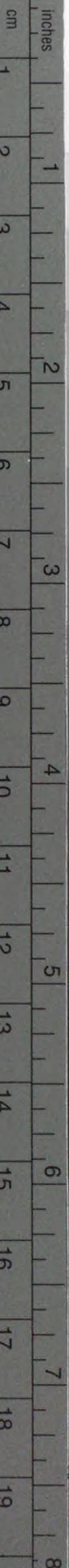


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



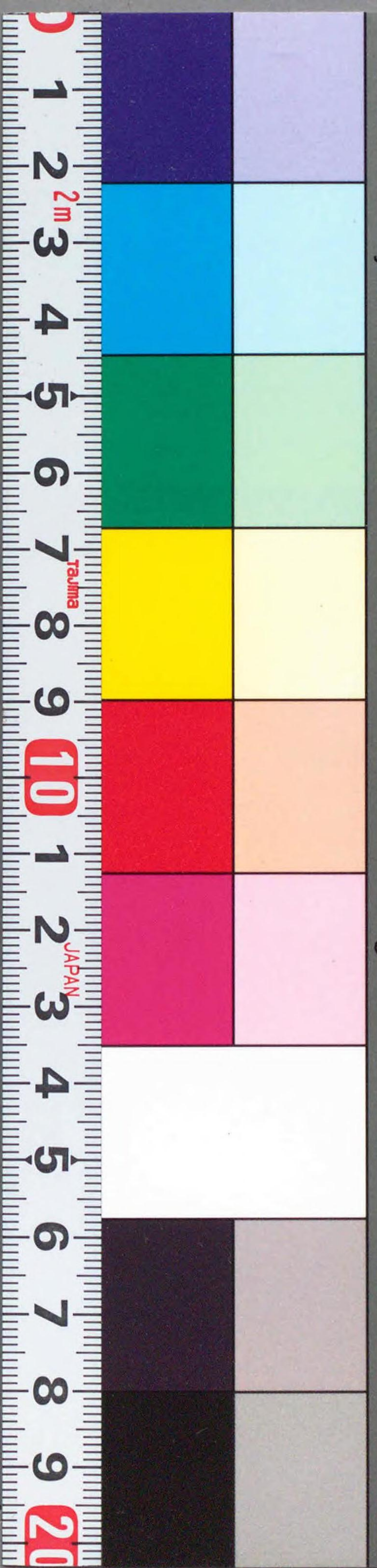
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



328.021
N249t

00690995

328.021 N249t

B-1732

copy of the laws of Japan?

Mayer

著作權關係法令集

內務省警保局

328.021

N249x



690395

著作權關係法令集 目次

一	國內法令	一
	著作權法	一
	著作權法施行ニ關スル件	一七
	著作權審査會官制	一七
	著作權法施行規則	一七
	登録稅法(抄錄)	三〇
	登録稅法施行規則	三五
	參考	
	著作權法中改正法律(昭和九年)	三七
	著作權法中改正法律(昭和六年)	四〇
	著作權法中改正法律(大正九年)	四〇
	著作權法中改正法律(明治四十三年)	四〇
二	關係法令	五
	民事訴訟法(抄錄)	五
	刑法施行法(抄錄)	五

著作權法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件	五三
臺灣ニ施行スベキ法令ニ關スル法律	五二
樺太ニ施行スベキ法令ニ關スル法律	五三
關東州ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件	五五
帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ效力ニ關スル件	五五
三條 約	五七
千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ及千九百二十八年六月二日「ローマ」ニ於テ改正セラレタル千八百八十六年九月九日ノ文學的及美術的著作物保護ニ關スル「ベルヌ」條約	五七
日米間著作權保護ニ關スル條約	九二
支那ニ於ケル發明意匠商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日米條約(抄)	九六
支那ニ於ケル發明意匠商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日佛條約(抄)	九九
追加日清通商航海條約(抄)	一〇四
日暹間通商航海條約(抄)	一〇八
日ラ間通商航海條約(抄)	一一三
波蘭ニ關スル條約(抄)	一二六

國內法令

著作權法

(明治三十二年三月四日
法律第三十九號)

改正

明治四十三年法律第六十三號
大正九年法律第六十號
昭和六年法律第六十四號
昭和九年法律第四十八號
昭和十六年法律第三十五號

第一章	著作者ノ權利
第二章	出版權
第三章	偽作
第四章	罰則
第五章	附則

第一章 著作者ノ權利

第一條 文書演述圖畫建築彫刻模型寫真演奏歌唱其ノ他文藝學術若ハ美術(音樂ヲ含ム以下之ニ

同ジ)ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

第二條 著作權ハ其ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スルコトヲ得

第三條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第四條 著作ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名ノ登録ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條 官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ツツテ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス
一 法律命令及官公文書

二 新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル雜報及時事ヲ報道スル記事
三 公開セル裁判所、議會並政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實名ノ登録ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬ス
各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ

此ノ限ニ在ラス

各著作ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作ニ掲クルコトヲ得ス

第十四條 數多ノ著作ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作ニ屬ス

第十五條 著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

無名又ハ變名著作物ノ著作ハ現ニ其ノ著作權ヲ有スルト否トニ拘ハラズ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條 登錄ハ行政廳之ヲ行フ得

登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 未タ發行又ハ興行セサル著作ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 他人ノ著作ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ著作ノ生存中ハ著作ガ現ニ其ノ著作權ヲ有スルト否トニ拘ラズ其ノ同意ナクシテ著作ノ氏名稱號ヲ變更若ハ隱匿シ又ハ其ノ著作ニ改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘ若ハ其ノ題號ヲ改ムルコトヲ得ズ

他人ノ著作ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ著作ノ死後ハ著作權ノ消滅シタル後ト雖モ其ノ著作ニ改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘテ著作ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作ノ氏名稱號ヲ變更若ハ隱匿スルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ第二十條、第二十條ノ二、第二十二條ノ五第二項、第二十七條第一項第二項、第三十條第一項第二號乃至第九號ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第十九條 原著作ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル政治上ノ時事問題ヲ論議シタル記事(學術上ノ著作物ヲ

除クハ特ニ轉載ヲ禁スル旨ノ明記ナキトキハ其ノ出所ヲ明示シテ之ヲ他ノ新聞紙又ハ雜誌ニ轉載スルコトヲ得

第二十條ノ二 時事問題ニ付テノ公開演述ハ著作者ノ氏名、演述ノ時及場所ヲ明示シテ之ヲ新聞紙又ハ雜誌ニ掲載スルコトヲ得但シ同一著作者ノ演述ヲ蒐輯スル場合ハ其ノ著作者ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス

第二十一條 翻譯者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラ

ルルコトナシ
第二十二條 原著物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十二條ノ二 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ヲ活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ複製(脚色シテ映畫ト爲ス場合ヲ含ム)シ及興行スルノ權利ヲ包含ス

第二十二條ノ三 活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ノ著作者ハ文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者トシテ本法ノ保護ヲ享有ス其ノ保護ノ期間ニ付テハ獨創性ヲ有スルモノニ在リテハ第三條乃至第六條及第九條ノ規定ヲ適用シ之ヲ缺クモノニ在リテハ第二十三條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條ノ四 他人ノ著作物ヲ活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ複製(脚色シテ映畫ト爲ス場合ヲ含ム)シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ゲラ

ルルコトナシ
第二十二條ノ五 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ノ無線電話ニ依ル放送ヲ許諾スルノ權利ヲ包含ス

無線電信法及之ニ基キ發スル命令ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル放送無線電話施設者ハ既ニ發行又ハ興行シタル他人ノ著作物ヲ放送セントスルトキハ著作權者ト協議ヲ爲スコトヲ要ス協議調ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ定ムル相當ノ償金ヲ支拂ヒ其ノ著作物ヲ放送スルコトヲ得

前項ノ償金ノ額ニ付異議アル者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十二條ノ六 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ヲ音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ寫調シ及其ノ機器ニ依リ興行スルノ權利ヲ包含ス

第二十二條ノ七 音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ他人ノ著作物ヲ適法ニ寫調シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ機器ニ付テノ著作權ヲ有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

215

Handwritten notes in the top left margin of page 7, including the characters '215' and some illegible text.

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著作物ノ著作權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作權ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作權ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

著作權者ノ居所不明ナル場合其ノ他命令ノ定ムル事由ニ因リ著作權者ト協議スルコト能ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ定ムル相當ノ償金ヲ供託シテ其ノ著作物ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

前項ノ償金ノ額ニ付異議アル者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得

257.5
R 9.9

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

第二章 出版權

第二十八條ノ二 著作權者ハ其ノ著作物ヲ文書又ハ圖畫トシテ出版スルコトヲ引受クル者ニ對シ出版權ヲ設定スルコトヲ得

第二十八條ノ三 出版權者ハ設定行爲ノ定ムル所ニ依リ出版權ノ目的タル著作物ヲ原作ノ儘印刷術其ノ他ノ機械的又ハ化學的方法ニ依リ文書又ハ圖畫トシテ複製シ之ヲ發賣頒布スルノ權利ヲ專有ス但シ著作權者タル著作物ノ死亡シタルトキ又ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テ出版權ノ設定アリタル後三年ヲ經過シタルトキハ著作權者ハ著作物ヲ全集其ノ他ノ編輯物ニ輯録シ又ハ全集其ノ他ノ編輯物ノ一部ヲ分離シテ別途ニ之ヲ出版スルコトヲ妨ゲズ

第二十八條ノ四 出版權ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ設定アリタルトキヨリ三年間存続ス

第二十八條ノ五 出版權者ハ出版權ノ設定アリタルトキヨリ三月以内ニ著作物ヲ出版スルノ義務

ヲ負フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

出版權者ガ前項ノ義務ニ違反シタルトキハ著作權者ハ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ六 出版權者ハ著作物ヲ繼續シテ出版スルノ義務ヲ負フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

出版權者ガ前項ノ義務ニ違反シタルトキハ著作權者ハ三月以上ノ期間ヲ定メテ其ノ履行ヲ催告シ其ノ期間内ニ履行ナキトキハ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ七 著作者ハ出版權者ガ著作物ノ各版ノ複製ヲ完了スルニ至ル迄其ノ著作物ニ正當

ノ範圍内ニ於テ修正増減ヲ加フルコトヲ得

出版權者ガ著作物ヲ再版スル場合ニ於テハ其ノ都度豫メ著作者ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第二十八條ノ八 著作權者ハ其ノ著作物ノ出版ヲ廢絶スル爲何時ニテモ損害ヲ賠償シテ出版權ノ

消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ九 出版權ハ著作權者ノ同意ヲ得テ其ノ讓渡又ハ質入ヲ爲スコトヲ得

第二十八條ノ十 出版權ノ得喪、變更及質入ハ其ノ登録ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對

抗スルコトヲ得ズ

第十六條ノ規定ハ出版權ノ登録ニ付之ヲ準用ス

第二十八條ノ十一 出版權ノ侵害ニ付テハ本法中第三十四條及第三十六條ノ二ノ規定ヲ除クノ外偽作ニ關スル規定ヲ準用ス

第三章 偽作

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ偽作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ偽作ト看做サス

第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物

ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作り又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

第七 脚本又ハ樂譜ヲ收益ヲ目的トセズ且出演者ガ報酬ヲ受ケザル興行ノ用ニ供シ又ハ其ノ興行ヲ放送スルコト

第八 音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ著作物ノ適法ニ寫調セラレタルモノヲ興行又ハ放送ノ用ニ供スルコト

第九 専ラ官廳ノ用ニ供スル爲複製スルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ偽作物ヲ輸入スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十三條 善意ニシテ且過失ナク偽作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ボシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ偽作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應ジテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 偽作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作

者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ス

未タ發行セサル脚本、樂譜及活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作權者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

著作權者ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

第十五條第三項ノ規定ニ依リ著作年月日ノ登錄ヲ受ケタル著作物ニ在リテハ其ノ年月日ヲ以テ著作ノ年月日ト推定ス

第三十六條 偽作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ偽作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ偽作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十六條ノ二 第十八條ノ規定ニ違反シタル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ著作權者ハ著作權者タル

コトヲ確保シ又ハ訂正其ノ他其ノ聲望名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ請求シ及民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十八條ノ規定ニ違反シタル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ著作作者ノ死後ニ於テハ著作作者ノ親族ニ於テ其ノ著作作者タルコトヲ確保シ又ハ訂正其ノ他其ノ聲望名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル民事ノ訴訟ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第三十六條ノ三 本法ノ規定ニ依ル登録、第二十二條ノ五第二項若ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依ル償金ノ額又ハ著作ニ關スル一般的事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ジ又ハ此等ノ事項ニ付調査審議スル爲著作權審査會ヲ置ク
著作權審査會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 罰 則

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條、第二十條ノ二及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製

シタル者竝第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 著作作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 削除

第四十二條 虚偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 偽作物及專ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限り之ヲ沒收ス

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於

テ著作作者ノ死亡シタルトキ竝第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第五章 附 則

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七

十九號寫真版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作権ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條 本法施行前僞作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手

シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲之ヲ使
用スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ僞作ト認メラレサリシモノハ之

ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ僞作ト認メラレサリシモノハ

本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其

ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

著作権法施行ニ關スル件

(昭和十年七月九日 勅令第九十號)

第一條 内務省ニ著作登録簿ヲ備ヘ著作権法及之ニ基キテ發スル命令ニ依ル登録事項ヲ登録ス

第二條 著作権法第二十二條ノ五第二項ノ規定ニ依リ著作權者トノ協議調ハザル著作物ヲ放送セ

ントスル場合ハ内務大臣ノ裁定ヲ受クベシ同法第二十七條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ著作

物ヲ發行又ハ興行セントスル場合亦同ジ

第三條 内務大臣第一條ノ登録ヲ爲シ又ハ前條ノ裁定ヲ爲サントスル場合ニ於テ關係者朝鮮ニ住

所ヲ有スルトキハ朝鮮總督ニ、台灣ニ住所ヲ有スルトキハ台灣總督ニ豫メ協議スベシ

第四條 著作登録簿ノ種類及様式、登録手續其ノ他第一條ノ登録ニ關シ必要ナル事項並ニ第二條

ノ裁定ニ關スル手續ハ内務大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和十年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

著作権審査會官制

(昭和十年七月九日 勅令第九十一號)

改正 昭和十六年三月廿九日 勅令第三百八号

第一條 著作権審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ著作權法ノ規定ニ依リ登録、同法第二十二條ノ五

第二項若ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依ル償金ノ額又ハ著作ニ關スル一般的事項ニ付内務大臣ノ諮問ニ應ジ又ハ此等ノ事項ニ付調査審議ス

第二條 審査會ハ會長一人及委員二十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨グズ

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條 審査會ニ幹事ヲ置ク内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第七條 審査會ニ書記ヲ置ク内務大臣之ヲ命ズ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ昭和十年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

著作權法施行規則

(昭和六年七月二十八日 内務省令第十八號)

改正昭和十年七月九日 内務省令第四十六號

改正昭和十六年三月廿九日 内務省令第七號

改正昭和十八年八月 内務省令第六十號

改正昭和十八年八月 内務省令第六十號

第一章 著作ニ關スル登録

第一條 著作ニ關スル登録ハ左ニ掲グル事項ニ付之ヲ爲ス

一 著作權ノ移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅並ニ著作權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅

二 無名又ハ變名ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ニ關シ著作者ノ實名

三 著作ノ年月日

四 出版權及之ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅

第一條ノ二 假登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 登録ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件ガ具備セザルトキ

二 前條第一號及第四號ニ掲グル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ但シ其ノ請求權ハ始期付又ハ停止條件付ナルコト其ノ他將來ニ於テ確定スベキモノナル

コトヲ妨グズ

二〇

第一條ノ三 著作登録簿ハ著作權登録簿及出版權登録簿ノ二種トシ著作權登録簿ニハ第一條第一號ノ三第三號ノ事項ヲ登録シ出版權登録簿ニハ第一條第四號ノ事項ヲ登録ス
登録簿ノ様式竝ニ其ノ記載ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 登録ノ申請ハ登録權利者及登録義務者之ヲ爲スベシ但シ申請書ニ登録義務者ノ承諾書又ハ登録原因ヲ證スルニ足ルベキ書面ヲ添附シタルトキハ登録權利者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得
第二條ノ二 登録ノ申請書ハ一件毎ニ一通ヲ作り之ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シ申請人記名捺印スベシ

- 一 著作物ノ題號及著作物ヲ組成スル冊(箇)數竝ニ登録ノ目的ガ著作權以外ノ權利ニ關スル場合ニ在リテハ尙其ノ權利ノ表示
- 二 申請人ノ氏名及住所若シ申請人ガ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍
- 三 代理人ニ依リ申請スル場合ニ在リテハ其ノ氏名及住所
- 四 登録原因及其ノ日附
- 五 登録ノ目的
- 六 登録税ノ金額竝ニ質權設定ノ登録ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ債權金額(若シ一定ノ債權

金額ナキトキハ著作權ノ價格)

七 年月日

第二條ノ三 出版權設定ノ登録ノ申請書ニハ前條ニ掲グル事項ノ外尙左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 出版權設定ノ範圍
 - 二 印税及其ノ支拂時期(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)
 - 三 出版權ノ存續期間(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)
 - 四 著作權法第二十八條ノ三但書ノ特約(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)
 - 五 著作權法第二十八條ノ五第一項但書ノ特約(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)
 - 六 著作權法第二十八條ノ六第一項但書ノ特約(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)
- 第二條ノ四 著作權又ハ出版權ノ一部移轉又ハ制限付移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ在リテハ移轉スベキ權利ノ部分又ハ制限ヲ登録申請書ニ記載スベシ著作權若ハ出版權又ハ此等ヲ目的トスル質權ノ承繼人が多數ナル場合ニ於テ登録原因ニ持分ノ定アルトキ其ノ持分ニ付亦同ジ
- 第二條ノ五 信託ノ登録ノ申請書ニハ第二條ノ二ニ掲グル事項ノ外尙左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

二一

一 委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ氏名及住所若シ委託者、受託者、受益者又ハ信託管理人ガ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍

二 信託ノ目的

三 信託財産ノ管理方法

四 信託終了ノ事由

五 其ノ他信託ノ條項

第三條 實名ノ登録ノ申請書ニハ第二條ノ二ニ掲グル事項ノ外尙左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 著作權者ノ氏名(若シ著作權者ナキトキハ其ノ旨)

二 著作權者ノ實名及住所若シ著作權者ガ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍

三 發行者又ハ興行者ノ氏及住所若シ發行者又ハ興行者ガ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍

第四條 著作年月日ノ登録ノ申請書ニハ第二條ノ二ニ掲グル事項ノ外尙左ニ掲グル事項ヲ記載ス

ベシ

一 著作ノ年月日

二 著作權者ノ氏名及住所(若シ著作權者ナキトキハ其ノ旨)

第五條 登録ノ申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル著作物ノ明細書ヲ添附スベシ

一 著作物ノ題號

二 著作權者ノ氏名若シ著作權者ガ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍

三 既ニ發行又ハ興行シタル著作物ニ關シ登録ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ著作物ヲ初テ發行

シ又ハ興行シタル際顯ハシタル著作權者ノ實名又ハ變名(若シ無名著作物ナルトキハ其ノ旨)

四 著作ノ年月日若シ外國人ノ著作シタル著作物ニ關シ登録ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ尙著

作物ヲ初テ發行シタル國名

五 著作物ヲ初テ發行又ハ興行シタル年月日(若シ未ダ發行又ハ興行ヲ爲サザルモノナルトキ

ハ其ノ旨)

六 著作物ノ種別及内容又ハ體様若シ著作物ノ體様ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナルトキハ其ノ圖

面、寫真等ヲ添附スベシ

七 著作物ニ付既ニ登録ヲ受ケタルコトアルトキハ前登録ノ年月日及登録番號

第六條 左ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スルニ足ルベキ戸籍又ハ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ登録申

請書ニ添附スベシ

一 登録原因ガ相續其ノ他ノ一般承繼ナル場合

二 申請人タルベキ者ノ相續人其ノ他ノ一般承繼人ニ於テ登録ヲ申請スル場合

三 登録名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登録ヲ申請スル場合

第七條 登録税法施行規則第四條第一項ノ場合ニ於テ既ニ登記所又ハ登録官廳ニ於テ登記又ハ登録ヲ受ケタルコトアルトキハ登録ノ申請書ニ其ノ登記所又ハ登録官廳ノ交付シタル登録税ノ受領證ヲ添附スベシ

第八條 登録ノ變更、更正若ハ抹消又ハ抹消シタル登録ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利害關係ヲ有スル者アルトキハ登録申請書ニ其ノ承諾書又ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本ヲ添附スベシ

第九條 内務大臣ハ登録ヲ完了シタルトキハ官報ニ公告シ且申請人ニ通知ス

第十條 登録ヲ完了シタル後其ノ登録ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ登録権利者及登録義務者ニ通知ス

前項ノ場合ニ於テ登録ノ錯誤又ハ遺漏ガ登録官吏ノ過誤ニ出デタルトキハ登録上利害關係ヲ有スル第三者アル場合ヲ除クノ外遲滞ナク其ノ登録ノ更正ヲ爲シ其ノ旨ヲ登録権利者及登録義務者ニ通知ス

第十一條 登録税法施行規則第四條第一項ノ規定ニ依リ登録税ヲ徵收スル場合ニ於テハ後ニ登記又ハ登録ヲ申請スヘキ登記所又ハ登録官廳ノ數ニ應ジ課税價額ヲ記載シタル登録税ノ受領證ヲ

申請人ニ交付スルモノトス但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附ス

第十二條 何人ト雖モ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付シテ登録簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又ハ利害ノ關係アル部分ニ限り登録簿若ハ其ノ附屬書類ノ閱覽ヲ申請スルコトヲ得

一 登録簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付

用紙一枚ニ付(一枚ニ滿チザルモノト雖モ仍之ヲ一枚ニ計算ス)

金 五十錢

二 登録簿又ハ其ノ附屬書類ノ閱覽

金 五十錢

前項ノ手数料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スベシ

第十三條 前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル申請書ヲ内務大臣ニ差出スベシ

一 著作物ノ題號及著作者ノ氏名

二 登録ノ年月日及登録番號

三 手数料ノ金額

四 申請ノ年月日

第十四條 登録簿ノ抄本ノ交付ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ抄本ノ交付ヲ申請スル部分ヲ記載スベシ

第二章 著作權者トノ協議調ハザル著作物ノ放送

第十五條 著作權法第二十二條ノ五第二項ノ規定ニ依リ放送無線電話施設者ガ著作權者トノ協議調ハザル著作物ヲ放送セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ内務大臣ニ差出シ裁定ヲ求ムベシ

- 一 著作物ノ題號及著作者ノ氏名並ニ外國人ナルトキハ其ノ國籍
- 二 著作物ノ種別及内容
- 三 著作物ノ發行又ハ興行ノ年月日
- 四 著作權者ノ氏名及住所若シ著作權者ガ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍
- 五 放送ノ日時及場所
- 六 償金ノ見積金額及其ノ算定基準
- 七 放送ヲ必要トスル事由
- 八 著作權者トノ協議調ハザル事由

前項ノ申請書ニハ著作權者ノ意見書ヲ添附スルコトヲ要ス若シ之ヲ添附スルスコト能ハザルトキハ申請書ニ其ノ事由ヲ附記スベシ

第十六條 内務大臣ガ前條ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ爲ス場合ニ於テハ償金ニ付テモ之カ決定ヲ

爲スモノトス

前條ノ規定ニ基キ償金ニ付決定ヲ

第十六條ノ二 内務大臣ガ第十五條第十項ノ裁定ヲ爲ス場合ニ於テハ著作權審査會ニ諮問ス

第十七條 内務大臣ガ第十五條ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ著作權者ニ通知ス

前項ノ通知書ニハ著作物ノ題號及著作者ノ氏名、放送ノ日時及場所並ニ決定シタル償金ノ額ヲ記載スルモノトス

第十八條 第十五條ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ受ケタル後放送無線電話施設者ガ放送ノ日時又ハ場所ヲ變更セントスルトキハ豫メ其ノ旨ヲ内務大臣ニ届出デ且著作權者ニ通知スベシ

第三章 著作權者ト協議スルコト能ハザル著作物ノ

發行又ハ興行

第十九條 著作權法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ著作物ヲ發行又ハ興行セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ内務大臣ニ差出シ裁定ヲ求ムベシ

- 一 著作物ノ題號及著作者ノ實名又ハ變名(若シ無名著作物ナルトキハ其ノ旨)
- 二 著作物ノ種別及内容

三 著作物ノ發行又ハ興行ノ日時及方法
四 著作權者ノ不明ナル事由

第二十條 左ノ各號ニ掲グル事由ニ因リ著作權者ト協議スルコト能ハザルトキハ内務大臣ノ裁定ヲ受ケ著作權法第二十七條第二項ノ規定ニ依リ其ノ著作物ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

一 著作權者ノ居所不明ナルトキ

二 著作ニ關スル登録ナキニ因リ著作權者ノ何人ナリヤヲ確認シ得ザルトキ

三 著作權者ガ帝國內ニ居所ヲ有セズ且帝國內ニ於ケル其ノ代理人不明ナルトキ

第二十一條 前條ノ裁定ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ内務大臣ニ差出シ裁定ヲ求ムベシ

一 著作物ノ題號及著作者ノ氏名若シ著作者ガ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍

二 著作物ノ種別及内容

三 著作物ノ發行又ハ興行ノ日時及方法

四 償金ノ見積金額及其ノ算定基準

五 著作權者ト協議スルコト能ハザル事由

前項ノ申請ヲ爲サントスル者ハ著作權者ト協議スルコト能ハザル事由ヲ書面又ハ口頭ヲ以テ疏

明スベシ

第二十二條 内務大臣ガ前條第一項ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ爲ス場合ニ於テハ償金ニ付テモ之

カ決定ヲ爲スモノトス

其條ノ規定ニ基キ償金ニ付決定ヲ

第二十三條 内務大臣ガ第十九條又ハ第二十一條第一項ノ裁定ヲ爲ス場合ニ於テハ著作權審査會

ニ諮問ス

第二十四條 内務大臣ガ第二十一條第一項ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ官

報ニ公告ス

前項ノ公告ニハ著作物ノ題號及著作者ノ氏名、發行又ハ興行ノ日時及方法、發行又ハ興行セン

トスル者ノ氏名及住所並ニ決定シタル償金ノ額ヲ記載スルモノトス

第二十五條 第十九條又ハ第二十一條第一項ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ受ケタル後申請人が發行

又ハ興行ノ日時又ハ方法ヲ變更セントスルトキハ更ニ内務大臣ノ裁定ヲ受クルコトヲ要ス

附 則 (昭和十年内務省令第四十号)

本令ハ昭和十年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ繫屬スル登録ニ關スル處分及手續ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ爲シタル登録ニ關スル處分及手續ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

附 則

昭和十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則ハ昭和十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ各號ハ之ヲ廢止ス
明治三十二年内務省令第二十七号
明治三十二年内務省令第二十七号
明治三十二年内務省令第二十七号
本則施行ノ際現ニ繫屬スル登録ニ關スル處分及手續ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル
前項ノ規定ニ依リ爲シタル登録ニ關スル處分及手續ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

登録税法 (抄録)

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第十條 著作權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 著作權ノ移轉
 - 相續 每一件 金 一 圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金 五 圓
- 二 著作權ヲ目的トスル質權ノ設定
 - 債權金額 千分ノ五・五
- 三 前號ノ權利ノ移轉
 - 相續 每一件 金 五十 錢
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金 一 圓
- 四 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登録
 - 每一件 金 二 圓
- 四ノ二 信託ノ登録
 - 每一件 金 一 圓
- 四ノ三 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號及第二號ノ權利ノ處分ノ制限
 - 債權金額 千分ノ四

- 四ノ四 著作年月日ノ登録
 - 每一件 金 一 圓
- 四ノ五 抹消シタル登録ノ回復
 - 每一件 金 五十 錢
- 四ノ六 假登録
 - 每一件 金 五十 錢
- 五 登録ノ更正、變更又ハ抹消
 - 每一件 金 二十 錢
- 第十條ノ二 出版權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムベシ
 - 一 出版權ノ設定
 - 每一件 金 十 圓
 - 二 出版權ノ移轉
 - 相續 每一件 金 一 圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金 五 圓
 - 三 出版權ヲ目的トスル質權ノ設定
 - 債權金額 千分ノ五・五
 - 四 前號ノ權利ノ移轉
 - 相續 每一件 金 五十 錢
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金 一 圓
 - 五 信託ノ登録
 - 每一件 金 一 圓
 - 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限

- 七 抹消シタル登録ノ回復
- 八 假登録
- 九 登録ノ更正、變更又ハ抹消

債權金額	千分ノ四
每一件	金五十錢
每一件	金五十錢
每一件	金二十錢

第十六條ノ二 債權金額ニ依リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノ又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做シ先取特權、質權、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記又ハ登録スル場合ニ於テハ差押ヘラルヘキ債權ノ額又ハ質權若ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ最少キモノヲ以テ債權金額ト看做ス

第十六條ノ三 管轄ヲ異ニスル登記所ニ於テ順次ニ不動産登記法第二百二十二條ノ規定ニ依ル登記ヲ受クル場合ニ於テ各登記所ニ於テ受クル登記ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徴收スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條ノ二 信託ニ因ル財産權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登録税ヲ課セス

- 一 委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登録
 - 二 受益者又ハ歸屬權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登録但シ不動産又ハ船舶ノ所有權取得ニ付テハ第三條ノ四ニ依ル
 - 三 信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ權利取得ノ登記又ハ登録
- 前項第一號ノ規定ハ當該信託財産ニ付受益者(歸屬權利者ヲ含ム)變更ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ信託財産ハ其ノ變更ノ登記又ハ登録ノトキニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登録税ヲ課ス
- 第十九條ノ三 登記又ハ登録ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録税ヲ課セス
- 第十九條ノ五 登記所カ登録申請者ノ申告シタル課税標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者ニ告知スヘシ

第十九條ノ六 前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課税標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課税標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ七 前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十九條ノ八 登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル税額ト認定價格ニ相當スル税額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ

第十九條ノ九 當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス

第十九條ノ十 評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク

第十九條ノ十一 評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ニ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ十二 評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

登録税法施行規則 (抄録)

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登録若ハ假登録ヲ登記所又ハ登録官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登録税ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所又ハ登録官廳ニ送付スヘシ

第四條 同一債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニ於テ登記所又ハ登録官廳ニ於テ受クル登記又ハ登録ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記又ハ登録ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做シテ登録税ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ登記又ハ登録中ニ登録税法第三條ノ五又ハ第三條ノ六ニ該當スルモノト

其ノ他ノモノトヲ包含スルトキハ先ツ登録税法第三條ノ五又ハ第三條ノ六ニ該當スルモノノ登記又ハ登録ニ付登録税ヲ徴收ス

第四條ノ二 前條ノ規定ハ登録税法第十六條ノ五第二項ノ規定ニ依ル登録税ノ徴收ニ付之ヲ準用ス

第六條 登録税法第十九條ノ六ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ登記申請者ノ豫納スヘキ費用ハ評價人ノ手當、旅費及手續ノ費用ニ相當スル金額トス

第七條 登録税法第十九條ノ十二依ル評價人ノ旅費ハ別表ニ依ル其ノ支給ニ付テハ内國旅費規則ヲ準用ス

第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録税法第十九條ノ十二依ル評價人ノ手當ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日三圓以上十圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム

参 考

著作權法中改正法律

(昭和九年五月一日
法律第四十八號)

著作權法中左ノ通改正ス

目次中「第一章 著作者ノ權利」ノ次ニ「第二章 出版權」ヲ加ヘ「第二章」ヲ「第三章」ニ、「第三章」ヲ「第四章」ニ、「第四章」ヲ「第五章」ニ改ム

第二條中「之ヲ」ヲ「其ノ全部又ハ一部ヲ」ニ改ム

第十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

著作者ハ現ニ著作權ヲ有スルト否トニ拘ラズ其ノ著作物ノ著作年月日ノ登録ヲ受クルコトヲ得
第十八條第三項中「及第三十條第一項第二號乃至第六號」ヲ、「第二十七條第一項第二項、第三十條第一項第二號乃至第九號」ニ改ム

第二十二條ノ六 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ヲ音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ寫調シ及其ノ機器ニ依リ興行スルノ權利ヲ包含ス

第二十二條ノ七 音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ他人ノ著作物ヲ適法ニ寫調シタル者

ハ著作物ト看做シ其ノ機器ニ付テノミ著作権ヲ有ス
第二十七條ニ左ノ二項ヲ加フ

著作權者ノ居所不明ナル場合其ノ他命令ノ定ムル事由ニ因リ著作權者ト協議スルコト能ハザル
トキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ定ムル相當ノ償金ヲ供託シテ其ノ著作物ヲ發行又ハ興
行スルコトヲ得

前項ノ償金ノ額ニ付異議アル者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條ノ次ニ左ノ如ク加フ

第二章 出版權

第二十八條ノ二 著作權者ハ其ノ著作物ヲ文書又ハ圖畫トシテ出版スルコトヲ引受クル者ニ對シ
出版權ヲ設定スルコトヲ得

第二十八條ノ三 出版權者ハ設定行爲ノ定ムル所ニ依リ出版權ノ目的タル著作物ヲ原作ノ儘印刷
術其ノ他ノ機械的又ハ化學的方法ニ依リ文書又ハ圖畫トシテ複製シ之ヲ發賣頒布スルノ權利ヲ
專有ス但シ著作權者タル著作物ノ死亡シタルトキ又ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テ出版
權ノ設定アリタル後三年ヲ經過シタルトキハ著作權者ハ著作物ヲ全集其ノ他ノ編輯物ニ輯録シ

又ハ全集其ノ他ノ編輯物ノ一部ヲ分離シテ別途ニ之ヲ出版スルコトヲ妨ゲズ

第二十八條ノ四 出版權ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ設定アリタルトキヨリ三年間存續
ス

第二十八條ノ五 出版權者ハ出版權ノ設定アリタルトキヨリ三月以内ニ著作物ヲ出版スルノ義務
ヲ負フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

出版權者ガ前項ノ義務ニ違反シタルトキハ著作權者ハ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ六 出版權者ハ著作物ヲ繼續シテ出版スルノ義務ヲ負フ但シ設定行爲ニ別段ノ定
ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

出版權者ガ前項ノ義務ニ違反シタルトキハ著作權者ハ三月以上ノ期間ヲ定メテ其ノ履行ヲ催告
シ其ノ期間内ニ履行ナキトキハ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ七 著作物ハ出版權者ガ著作物ノ各版ノ複製ヲ完了スルニ至ル迄其ノ著作物ニ正當
ノ範圍内ニ於テ修正増減ヲ加フルコトヲ得

出版權者カ著作物ヲ再版スル場合ニ於テハ其ノ都度豫メ著作物ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス
第二十八條ノ八 著作權者ハ其ノ著作物ノ出版ヲ廢絶スル爲何時ニテモ損害ヲ賠償シテ出版權ノ
消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ九 出版權ハ著作權者ノ同意ヲ得テ其ノ讓渡又ハ質入ヲ爲スコトヲ得
第二十八條ノ十 出版權ノ得喪、變更及質入ハ其ノ登録ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對
抗スルコトヲ得ズ

第十六條ノ規定ハ出版權ノ登録ニ付之ヲ準用ス

第二十八條ノ十一 出版權ノ侵害ニ付テハ本法中第三十四條及第三十六條ノ二ノ規定ヲ除クノ外
偽作ニ關スル規定ヲ準用ス

「第二章」ヲ「第三章」ニ改ム

第三十條第一項ニ左ノ三號ヲ加フ

第七 脚本又ハ樂譜ヲ收益ヲ目的トセズ且出演者ガ報酬ヲ受ケザル興行ノ用ニ供シ又ハ其ノ興
行ヲ放送スルコト

第八 音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ著作物ノ適法ニ寫調セラレタルモノヲ興行又
ハ放送ノ用ニ供スルコト

第九 専ラ官廳ノ用ニ供スル爲複製スルコト

第三十二條ノ二及第三十二條ノ三ヲ削ル

第三十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

第十五條第三項ノ規定ニ依リ著作年月日ノ登録ヲ受ケタル著作物ニ在リテハ其ノ年月日ヲ以テ
著作ノ年月日ト推定ス

第三十六條ノ二ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十六條ノ三 本法ノ規定ニ依ル登録、第二十二條ノ五第二項若ハ第二十七條第二項ノ規定ニ
依ル償金ノ額又ハ著作ニ關スル一般的事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ジ又ハ此等ノ事項ニ付調査

審議スル爲著作權審査會ヲ置ク

著作權審査會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

「第三章」ヲ「第四章」ニ、「第四章」ヲ「第五章」ニ改ム

附 則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録税法第十條第四號ノ二ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ

四ノ三 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號及第二號ノ權利ノ處分ノ制限

債權金額 千分ノ四

四ノ四 著作年月日ノ登録 一每件 金 一圓

四ノ五 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢

四ノ六 假登録

每一件 金五十錢

四二

同法ニ左ノ一條ヲ加フ

第十條ノ二 出版權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムベシ

一 出版權ノ設定 每一件 金十圓

二 出版權ノ移轉 相續 每一件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓

三 出版權ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五

四 前號ノ權利ノ移轉 相續 每一件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓

五 信託ノ登録 每一件 金一圓

六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四

七 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢

八 假登録 每一件 金五十錢

九 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢

著作權法中改正法律案理由書

現行著作權法ハ明治三十二年ノ制定ニ係リ其ノ後國際條約ノ改正等ニ依リ一部改正アリタリト雖モ何レモ當時條約ニ基キ必要ナル最少限度ノ應急的措置ニ止マリ現時ニ於ケル斯界ノ實狀ニ徴シテ遺憾ノ點アリ仍テ今回出版業者ノ權利ヲ新設スルト共ニ出版者ニ對スル著作權者ノ權益ヲ確保シ又著作年月日ヲ公證シ得ルノ制ヲ設ケ著作ニ關スル一般的事項ニ付調査審議スル爲ノ審査會ヲ置ク等多年民間關係者ノ翹望シタル事項ヲ實現シテ文化ノ發展ニ資セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和十年七月八日
勅令第百八十九號

昭和九年法律第四十八號著作權法中改正法律ハ昭和十年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

著作権法中改正法律

(昭和六年五月三十日
法律第六十四號)

四四

著作権法中左ノ通改正ス

第一條第一項中「美術」ヲ「美術(音樂ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ニ改ム

第十一條第二號中「新聞紙」ノ下ニ「又ハ雜誌」ヲ加ヘ「記載」ヲ「掲載」ニ、「時事ノ記事」ヲ「時事ヲ報道スル記事」ニ改ム

第十五條第二項中「無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ」ノ下ニ「現ニ其ノ著作権ヲ有スルト否トニ拘ラズ」ヲ加フ

第十八條 他人ノ著作物ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ著作者ノ生存中ハ著作権ヲ有スルト否

トニ拘ラス其ノ同意ナクシテ著作者ノ氏名稱號ヲ變更若ハ隱匿シ又ハ其ノ著作物ニ改竄其他ノ變更ヲ加ヘ若ハ其ノ題號ヲ改ムルコトヲ得ズ

他人ノ著作物ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ著作者ノ死後ハ著作権ノ消滅シタル後ト雖モ其ノ著作物ニ改竄其他ノ變更ヲ加ヘテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ變更若ハ隱匿スルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ第二十條第二十條ノ二第二十二條ノ五第二項及第三十條第一項第二號乃至第六

號ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第二十條 新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル政治上又ハ時事問題ヲ論議シタル記事(學術上ノ著作物ヲ除ク)ハ特ニ轉載ヲ禁ズル旨ノ明記ヲキトキハ其ノ出所ヲ明示シテ之ヲ他ノ新聞紙又ハ雜誌ニ轉載スルコトヲ得

第二十條ノ二 時事問題ニ付テノ公開演述ハ著作者ノ氏名、演述ノ時及場所ヲ明示シテ之ヲ新聞紙又ハ雜誌ニ掲載スルコトヲ得但シ同一著作者ノ演述ヲ蒐輯スル場合ハ其ノ著作者ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス

第二十二條ノ二 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作権ハ其ノ著作物ヲ活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ複製(脚色シテ映畫ト爲ス場合ヲ含ム)シ及興行スルノ權利ヲ包含ス

第二十二條ノ三 活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ノ著作者ハ文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者トシテ本法ノ保護ヲ享有ス其ノ保護ノ期間ニ付テハ獨創性ヲ有スルモノニ在リテハ第三條乃至第六條及第九條ノ規定ヲ適用シ之ヲ缺クモノニ在リテハ第二十三條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條ノ四 他人ノ著作物ヲ活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ複製(脚色シテ映畫ト爲ス場合ヲ含ム)シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作者ノ權利ハ之ガ爲ニ

妨ゲラルルコトナシ

第二十二條ノ五 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作権ハ其ノ著作物ノ無線電話ニ依ル放送ヲ許諾スルノ權利ヲ包含ス

無線電法信及之ニ基キ發スル命令ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル放送無線電話施設者ハ既ニ發行又ハ興行シタル他人ノ著作物ヲ放送セントスルトキハ著作権者ト協議ヲ爲スコトヲ要ス協議調ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ定ムル相當ノ償金ヲ支拂ヒ其ノ著作物ヲ放送スルコトヲ得

前項ノ償金ノ額ニ付異議アル者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十二條ノ二 削除

第三十五條第三項中「及樂譜」ヲ「、樂譜及活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物」ニ改ム

第三十六條ノ二 第十八條ノ規定ニ違反シタル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ著作作者ハ著作作者タルコトヲ確保シ又ハ訂正其ノ他其ノ聲望名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ請求シ及民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十八條ノ規定ニ違反シタル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ著作作者ノ死後ニ於テハ著作作者ノ親族

ニ於テ其ノ著作作者タルコトヲ確保シ又ハ訂正其ノ他其ノ聲望名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル民事ノ訴訟ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第三十九條中「第二十條」ノ下ニ「第二十條ノ二」ヲ加フ

第四十一條 削除

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

著作権法中改正法律案理由書

昭和三年六月伊太利國「ローマ」ニ於テ調印セラレタル文學的及美術的著作物保護ニ關スル「ベルヌ」條約修正ニ伴ヒ我國內法タル現行著作権法中其ノ一部ヲ改正スルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和六年七月二十六日
勅令 第一二二號

昭和六年法律第六十四號ハ昭和六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

著作權法中改正法律

(大正九年八月十九日
法律第六十號)

著作權法中左ノ通改正ス

第一條中寫眞ノ次ニ「演奏歌唱」ヲ加フ

第三十二條ノ三 音ヲ器械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ他人ノ著作物ヲ寫調スル者ハ偽作者ト看做ス

著作權法中改正法律

(明治四十三年六月十四日
法律第六十三號)

著作權法中左ノ通改正ス

第一條中「圖畫」ノ次ニ「建築」ヲ加フ

第十一條中「及定期刊行物」及「政治上ノ論說若ハ」ヲ削ル

第十五條 著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコ

トヲ得ス無名又ハ無名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二十條中「及定期刊行物」ヲ削リ「小説」ノ次ニ「及文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物」ヲ加

フ

第二十一條 翻譯者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラ
ルルコトナシ

第三十二條ノ二 活動寫眞術ニ依リ他人ノ著作物ヲ複製シ又ハ興行スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十九條及第四十二條中「十圓以上」ヲ削ル

第四十一條中「二十圓以上」ヲ削ル

第五十二條ヲ削ル

關係法令

民事訴訟法(抄)

第五百七十條 左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

刑法施行法(抄)

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一 著作権法ニ掲ケタル罪

二 削除

三 移民保護法ニ掲ケタル罪

(參照)

刑法第三條、本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス
(以下略)

著作權法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件

(明治四十三年八月二十九日)
勅令第三百三十八號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ著作權法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム(各大臣副署)
韓國著作權令ニ依ル登錄ハ之ヲ著作權法ニ依ル登錄ト看做ス
韓國著作權令ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(明治四十四年三月帝國議會承諾)

臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律 (抄)

(大正十年三月十五日)
法律第三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總理大臣副署)

第一條 法律ノ全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(以下略)

本法ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(以下略)

臺灣ニ施行セラルル法律(全部又ハ一部)左ノ如シ (抄)

全部施行

著作權法

明治三十二年勅令第三百一號

樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律 (抄)

(明治四十年三月二十九日)
法律第二十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總理、司法、內務大臣副署)

法律ノ全部又ハ一部ヲ樺太ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(以下略)

附 則

本令ハ明治四十年四年一日ヨリ之ヲ施行ス
樺太ニ施行セララルル法律(全部又ハ一部)左ノ如シ
全部施行

一 著作權法

昭和三年勅令第九十號

關東州ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標
權及著作權ノ保護ニ關スル件

(昭和四年十一月十六日
勅令第三百二十四號)

朕關東州ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム(總理、外務、拓務大臣副署)

第一條 特許權、實用新案權、商標權及著作權ノ效力ハ關東州ニ及フモノトス

第二條 特許法、實用新案法、意匠法、商標法及著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州ニ在ル
者ニ對シ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケ
ル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ
效力ニ關スル件

(明治四十四年五月二十
六日勅令第百六十七號)

(改正昭和四年第三二五號)

朕明治四十一年勅令第二百一號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務大臣副署)

第一條 帝國臣民カ帝國ニ於テ專有スル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ效力
ハ帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ及フモノトス

第二條 特許法、意匠法、商標法、實用新案法、著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ帝國カ治外法
權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ明治四十四年五月二十八日ヨリ之ヲ施行ス

條
約

千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ及千
九百二十八年六月二日「ローマ」ニ於テ改正セラレ
タル千八百八十六年九月九日ノ文學的及美術的著
作物保護ニ關スル「ベルヌ」條約

獨逸國大統領、 墺地利共和國聯邦大統領、 白耳義國皇帝陛下、「ブラジル」合衆國大統領、「アルガ
リア」國皇帝陛下、 丁抹國皇帝陛下、 西班牙國皇帝陛下、「エストニア」共和國大統領、「フィンラン
ド」共和國大統領、 佛蘭西共和國大統領、「グレート・ブリテン」、「アイルランド」及「グレート・
ブリテン」海外領土皇帝印度皇帝陛下、 希臘共和國大統領、「ハンガリー」國攝政殿下、 伊太利國
皇帝陛下、 日本國皇帝陛下、「ルクセンブルグ」國大公殿下、「モロッコ」國皇帝陛下、「モナコ」國
公殿下、 諾威國皇帝陛下、 和蘭國皇帝陛下、「ポーランド」國及「ダンチッヒ」自由市ノ名ニ於ケル

「ポーランド」共和國大統領、「ポルトガル」共和國大統領、「ルーマニア」國皇帝陛下、瑞典國皇帝陛下、瑞西聯邦政府、「シリア」國及「グレート、レバノン」國、「チェッコスロヴァキア」共和國大統領、「テニス」國公殿下ハ

文學的及美術的著作物ニ關シ著作者ノ權利ヲ能フ限り有效且均等ノ方法ヲ以テ保護センコトヲ均シク希望シ

千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ署名セラレタル條規ヲ改正シ且補足スルコトニ決シ之カ爲各左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

獨逸國大統領

伊太利國駐劄獨逸國大使、男爵「ドクトル、コンスタンティン、フォン、ノイラート」

司法省參事官「ゲオルグ、クラウエル」

外務省勤務公使館參事官「ウィルヘルム、マッケベン」

遞信省參事官「ドクトル、エーベルハルト、ノイゲバウエル」

獨逸國最高法院辯護士、高級法律顧問「ドクトル、ヨハネス、ミッテルシュテット」

國際文學及美術協會獨逸部部长「マキシミアン、ミンツ」

獨逸作曲者協會委員會委員、「プロシア」美術院評議員、教授「ドクトル、マックス、フォン、

シリングス」

演劇脚本著作者及演劇作曲者國際聯合會會長、著作者及作曲者協會國際同盟會副會長、獨

逸演劇脚本著作者及獨逸演劇作曲者協會會長、「プロシア」美術院評議員「ドクトル、ルー

ドウイッヒ、フルダ」

奧地利共和國聯邦大統領

省參事官「ドクトル、オーゲュスト、ヘッセ」

白耳義國皇帝陛下

伊太利國駐劄白耳義國大使、伯爵「デラ、ファイユ、ド、ルヴェルガン」

全權公使、衆議院議員「ジュール、デストレー」

衆議院議員「ポール、ヴォーヴェルマン」

「ブラジル」合衆國大統領

下院外交條約委員會委員、下院議員、新聞記者、前外交官「エフ、ベソア、デ、タイロス」
在「ローマ」「ブラジル」國大使館一等書記官「ジョアン、セヴェリアノ、ダ、フォンセカ、エル

メス、ジュニオル」

「ブルガリア」國皇帝陛下

在「ローマ」「ブルガリア」國公使館參事官「ストイル、セー、ストイロフ」
丁抹國皇帝陛下

伊太利國駐劄丁抹公使、侍從「イー、シー、ダブルヴィー、クルーセ」
文部省局長「エフ、グロー」

西班牙國皇帝陛下

國立考古學博物館次長、記録圖書考古專門家協會理事長、辯護士「フランシスコ、デ、パ
ウラ、アルヴァレス、オッソリオ」

「エストニア」共和國大統領

伊太利國駐劄「エストニア」國特命全權公使「カール、トーフエル」

「フィンランド」共和國大統領

前外務大臣、丁抹國駐劄「フィンランド」國特命全權公使、「ヘルシンキ」大學教授「ドクト
ル、エーミル、セテレ」

伊太利國駐劄「フィンランド」國特命全權公使「ドクトル、ロルフ、テスレッフ」

外務省法務局長、公使館參事官「ジョルジュ、ウインケルマン」

佛蘭西共和國大統領

伊太利國駐劄佛蘭西共和國大使「モーリス、ド、ポーマルシエ」

「パリ」控訴院辯護士、下院議員「マルセル、ブレーザン」

美術管理局法律顧問、「セイヌ」縣參事會會長、參議院名譽評定官「グリヌボーム・バラン」

商務省工業所有權局長「ドルエ」

國際文學及美術協會會長、「パリ」控訴院辯護士「ジョルジュ、マイヤール」

演劇脚本著作者及演劇作曲者協會國際同盟會會長、演劇脚本著作者及演劇作曲者協會前會

長、佛蘭西演說者及講演者協會會長「アンドレ、リヴォアール」

智能的勞働者同盟代表委員長、演劇脚本著作者及演劇作曲者協會名譽會長「ロマン、コー
リエ」

演劇脚本著作者及演劇作曲者協會前會長、學士院會員「アンドレ、メッサジエ」

「グレート、ブリテン」、「アイルランド」及「グレート、ブリテン」海外領土皇帝印度皇帝陛下

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」

英國政府首席經濟顧問「サー、シドニー、チャブマン」

工業所有權局監督官「ウィリアム、スミス、ジャラット」

工業所有權局副監督官「アルフレド、ジェームズ、マーティン」

「カナダ」

在「バリ」¹「カナダ」²辨務長官「フィリップ、ロイ」

「オーストラリア」³聯邦

「サー、ウィリアム、ハリソン、ムーア」

「ニュー、ジーランド」

「サムエル、ジョージ、レイモンド」

「アイルランド」自由國

國際聯盟ニ派遣ノ「アイルランド」自由國代表者「マイケル、マック、ホワイト」

印度

「ジー、グラハム、ディクソン」

希臘共和國大統領

伊太利國駐劄希臘國特命全權公使「ニコラス、マヴルーデイス」

「ハンガリー」國攝政殿下

伊太利國駐劄「ハンガリー」國特命全權公使「アンドレ、ド、ホリー」

伊太利國皇帝陛下

上院議員、國務大臣「プロフェッスール、ヴィットーリオ、シアロイヤ」

破毀院部長「エドアルド、ピオラ・カセツリ」

著作者協會會長、上院議員「ヴィンチェンツォ、モレッロ」

下院議員「エルマンノ、アミクツチ」

「バヴィア」大學教授、下院議員「アリッゴ、ソルミ」

名譽特命全權公使「プロフェッスール、アメデオ、ジャンニーニ」

參議院議員「ドメニコ、パローネ」

「ローマ」大學商法教授「チェザレ、ヴィヴァンテ」

國民經濟省監察長官「エミリオ、ヴェネチアン」

智能的所有權局長「ドクトル、アルフレド、ヤンノニ・セバスチアニーニ」

「ローマ」大學教授「マリオ、ギロン」

日本國皇帝陛下

伊太利國駐劄日本國大使松田道一

復興局部長赤木朝治

「ルクセンブルグ」國大公殿下

在「ローマ」「ルクセンブルグ」國領事、「ドクトゥール、アン、ドロア」「ヴィクトール、オー
ギスト、ブリュック」

「モロッコ」國皇帝陛下

伊太利國駐劄佛蘭西共和國大使「モーリス、ド、ボーマルシエ」

「モナコ」國公殿下

在「ローマ」「モナコ」國公使館書記生「ラウール、ソーヴァージュ」

諾威國皇帝陛下

前外務大臣、「ドクトゥール、アン、ドロア」「アルノルド、レースタット」

和蘭國皇帝陛下

「ドクトゥール、アン、ドロア」「ハー、エル、ド、ボーフォール」

國際文學及美術協會和蘭部部长、前特許委員會議長、前司法省參事官「ドクトル、エフ、

ヴェ、ジエ、ヘー、スナイデル、ド、ウィッセンケルク」

外務省情報部長「ドクトル、エル、ジエ、ブレンプ、ファン、ダイフェランド」

「ポーランド」共和國大統領

「ポーランド」國

司法省立法局長、「ヴァルソヴィー」破毀院檢事「ステファン、シエチコフスキ」

「クラコヴィー」大學教授「プロフェスール、フリデリック、ゾル」

「ダンチツヒ」自由市

司法省立法局長、「ヴァルソヴィー」破毀院檢事「ステファン、シエチコフスキ」

「ポルトガル」共和國大統領

伊太利國駐劄「ポルトガル」國特命全權公使「エンリケ、トリンダデ、コエリオ」

「ルーマニア」國皇帝陛下

辯護士「テオドル、ソラコロ」

瑞典國皇帝陛下

「ストックホルム」控訴院長、前外務大臣、男爵「エリク、マルクス、ド、ヴェルテンベルグ」

辯護士「エリク、リドフォルス」

瑞西聯邦政府

伊太利國駐劄瑞西國特命全權公使「ジョルジュ、ヴァニエール」

聯邦智能的所有權局局长「ヴェルテル、クラフト」

「ドクトゥール、アン、ドロア」、在「チューリッヒ」辯護士「アドルフ、シュトロイリ」

佛蘭西共和國大統領

「シリア」國及「グレート、レバノン」國

伊太利國駐劄佛蘭西國大使「モーリス、ド、ボーマルシュ」

「チェッコスロヴヰキア」共和國大統領

伊太利國駐劄「チェッコスロヴヰキア」國特命全權公使「ドクトル、ヴォイテフ、マスニー」

國際文學及美術協會「チェッコスロヴヰキア」部部长、「プチャীগ」「カロリナ」大學法學部教

授「ドクトル、カレル、ヘルマン・オタヴスキー」

「テュニス」國公殿下

伊太利國駐劄佛蘭西共和國大使「モーリス、ド、ボーマルシュ」

各全權委員ハ之ガ正當ナル委任ヲ受テ左ノ如ク協定セリ

第一條

本條約ノ適用セラルル國ハ文學的及美術的著作物ニ關スル著作者ノ權利ノ保護ノ爲同盟ヲ組織ス

第二條

(一) 「文學的及美術的著作物」ナル用語ハ表現ノ方法又ハ形式ノ如何ヲ問ハズ書籍、小冊子及其ノ他ノ文書、講演、演說、說教及其ノ他同性質ノ著作物、演劇脚本、樂譜入演劇脚本、演出ガ文

書其ノ他ノ方法ヲ以テ定メラレタル舞譜及無言劇、歌詞入り又ハ歌詞ナシノ樂譜、素描、繪畫、建築、彫刻、銅版及石版ノ著作物、圖解及地圖、地理學、地形學、建築學又ハ科學ニ關スル圖面、略圖及模型ノ如キ文藝、學術及美術ノ範圍ニ屬スル一切ノ製作物ヲ包含ス

(二) 翻譯、翻案、編曲及其ノ他文學的又ハ美術的著作物ノ變形複製物竝ニ異リタル著作物ノ編輯物ハ原作物ノ著作者ノ權利ヲ害セザル範圍内ニ於テ原著作物トシテ保護セラルベキモノトス

(三) 同盟國ハ前記著作物ノ保護ヲ確保スベキ義務ヲ有ス

(四) 工業ニ應用セラレタル美術的著作物ハ各國ノ國內法ノ認ムル限り保護セラルベキモノトス

第二條ノ二

(一) 政治演說及裁判所ニ於ケル辯論中ニ爲サレタル演述ヲ前條ニ定ムル保護ヨリ一部又ハ全部排除スルノ權能ハ同盟各國ノ國內法ニ留保セラル

(二) 講演、演說、說教及其ノ他同性質ノ著作物ヲ新聞紙雜誌ニ複製スルコトヲ得ル條件ヲ規定スルノ權能モ亦同盟各國ノ國內法ニ留保セラル尤モ前記著作物ヲ編輯物ト爲スノ權利ハ著作者ニ限リ之ヲ有スベシ

第三條

本條約ハ寫眞的著作物及寫眞術ト類似ノ方法ヲ以テ作りタル著作物ニ之ヲ適用ス同盟國ハ之ガ保

護ヲ確保スベキ義務ヲ有ス

第四條

- (一) 同盟ノ一國ニ屬スル著作家ハ公ニセザル又ハ同盟ノ一國ニ於テ初テ公ニシタル著作物ニ關シ著作物ノ本國以外ノ國ニ於テ、其ノ國法ガ内國民ニ現ニ許與シ又ハ將來許與スベキ權利及本條約ニ依リ特ニ許與セラレタル權利ヲ享有ス
- (二) 右權利ノ享有及行使ハ何等方式ノ履行ヲ要セズ其ノ享有及行使ハ著作物ノ本國ニ於ケル保護ノ存在ニ係ルコトナシ從テ本條約ノ規定ノ外保護ノ範圍及著作家ノ權利保全ノ爲右著作家ニ保障セラレタル救済ノ方法ハ保護ノ要求セラレル國ノ法律ニ專ラ依ルベキモノトス
- (三) 公ニセザル著作物ニ關シテハ著作家ノ屬スル國ヲ以テ著作物ノ本國トシ公ニシタル著作物ニ關シテハ第一發行ノ國ヲ以テ本國トシ同盟ノ數國ニ於テ同時ニ公ニシタル著作物ニ關シテハ右諸國ノ中其ノ國法ノ許與スル保護ノ期間最短キ國ヲ以テ其ノ本國トス同盟ニ屬セザル一國ト同盟ノ一國トニ於テ同時ニ公ニシタル著作物ニ關シテハ同盟國ノミヲ以テ本國トス
- (四) 「公ニシタル著作物」トハ本條約ノ意義ニ於テハ刊行シタル著作物ヲ謂フ演劇脚本又ハ樂譜入演劇脚本ノ上演、音樂的著作物ノ演奏、美術的著作物ノ展覽及建築的著作物ノ建設ハ公ニスルノ意味ニ非ザルモノトス

第五條

同盟ノ一國ニ屬スル者ニシテ同盟ノ他ノ一國ニ於テ初テ其ノ著作物ヲ公ニシタルモノハ其ノ國ニ於テ内國著作家ト同一ノ權利ヲ有ス

第六條

- (一) 同盟ノ一國ニ屬セザル著作家ニシテ同盟ノ一國ニ於テ初テ其ノ著作物ヲ公ニシタルモノハ其ノ國ニ於テハ内國著作家ト同一ノ權利ヲ享有シ同盟ノ他ノ諸國ニ於テハ本條約ノ許與スル權利ヲ享有ス
- (二) 尤モ同盟ニ屬セザル國カ同盟ノ一國ニ屬スル著作家ノ著作物ニ對シ充分ノ保護ヲ與ヘザルトキハ該同盟國ハ著作物ノ第一發行ノ當時該非同盟國ニ屬シ且同盟ノ一國ニ於テ現實ノ住所ヲ有セザル著作家ノ著作物ノ保護ヲ制限スルコトヲ得ベシ
- (三) 前項ニ基キ規定セラレタル如何ナル制限モ著作家が右制限ノ實施前同盟ノ一國ニ於テ公ニシタル著作物ニ關シ既ニ取得シタル權利ヲ妨グルコトナカルベシ
- (四) 本條ニ基キ著作家ノ權利ノ保護ヲ制限スベキ同盟國ハ右保護ノ制限ヲ受クベキ國及該國ニ屬スル著作家ノ權利ニ加フル制限ヲ示セル宣言書ヲ以テ其ノ旨ヲ瑞西聯邦政府ニ通告スベシ瑞西聯邦政府ハ直ニ右ノ事實ヲ同盟ノ一切ノ國ニ通知スベシ

第六條ノ二

- (一) 著作者ノ財産的權利ニ係ルコトナク且該權利ノ移轉後ト雖モ著作者ハ著作物ノ創作者タルコトヲ主張スルノ權利及右著作物ノ改竄、截除又ハ其ノ他ノ變更ニシテ著作者ノ名譽又ハ聲望ヲ害スルコトアルベキモノニ對シテ異議ヲ述ブルノ權利ヲ保有ス
- (二) 右權利行使ノ條件ヲ定ムルコトハ同盟國ノ國內法ニ留保セラル右權利保全ノ爲ニスル救濟ノ方法ハ保護ノ要求セラルル國ノ法律ニ依ルベキモノトス

第七條

- (一) 本條約ニ依リ許與セラルル保護ノ期間ハ著作者ノ生存間及其ノ死後五十年トス
- (二) 尤モ前項ノ期間ガ同盟ノ一切ノ國ニ依リ等シク採用セラレザル場合ニ於テハ保護ノ期間ハ保護ノ要求セラルル國ノ法律ニ依ルベク且著作物ノ本國ニ於テ定メラレタル期間ヲ超過スルコトヲ得ザルベシ從テ同盟國ハ其ノ國內法ニ合致スル範圍内ニ非サレバ前項ノ規定ヲ適用スルヲ要セサルベシ
- (三) 寫眞的著作物及寫眞術ト類似ノ方法ヲ以テ作りタル著作物、遺著、無名又ハ變名著作物ニ關シテハ保護ノ期間ハ保護ノ要求セラルル國ノ法律ニ依ルモノトス但シ著作物ノ本國ニ於テ定メラレタル期間ヲ超過スルコトヲ得ズ

第七條ノ二

- (一) 著作物ノ合著作者ノ共有ニ屬スル著作者ノ權利ノ期間ハ合著作者中最終ノ生存者ノ死亡ノ日ニ依リテ計算セラル
- (二) 第一項ニ定ムル保護ノ期間ヨリ短キ保護ノ期間ヲ許與スル國ニ屬スル若ハ同盟ノ他ノ諸國ニ於テ之ヨリ長キ期間ノ保護ヲ要求スルコトヲ得ズ
- (三) 如何ナル場合ニ於テモ保護ノ期間ハ合著作者中最終ノ生存者ノ死亡前ニ滿了スルコトヲ得ザルベシ

第八條

公ニセザル著作物ノ著作者ニシテ同盟ノ一國ニ屬スルモノ及同盟ノ一國ニ於テ初テ公ニシタル著作物ノ著作者ハ原著物ニ關スル權利ノ全存續期間中同盟ノ他ノ諸國ニ於テ其ノ著作物ノ翻譯ヲ爲シ又ハ之ヲ許諾スルノ特權ヲ享有ス

第九條

- (一) 同盟ノ一國ノ新聞紙又ハ定期編輯物中ニ於テ公ニシタル新聞小説、讀物及其ノ他題材ノ如何ヲ問ハズ文藝、學術又ハ美術ノ一切ノ著作物ハ著作者ノ承諾アルニ非ザレバ他國ニ於テ之ヲ複製スルコトヲ得ズ

- (二) 經濟上、政治上又ハ宗教上ノ時事問題ヲ論議シタル記事ハ其ノ轉載ガ明白ニ留保セラレザルトキハ新聞紙雜誌ニ之ヲ轉載スルコトヲ得但シ其ノ出所ハ常ニ之ヲ明瞭ニ示スコトヲ要ス此ノ義務ノ制裁ハ保護ノ要求セララルル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム
- (三) 本條約ノ保護ハ時事ノ記事又ハ單ニ新聞紙雜誌ノ報道ニ過ギザル雜報ニハ之ヲ適用セズ

第十條

教科用ニ供シ若ハ學術的ノ性質ヲ有スル刊行物ノ爲又ハ節用編輯ノ爲ニ文學的又ハ美術的著作物ヲ適法ニ引用スルノ權能ニ關シテハ同盟國ノ法律及同盟國間ニ現存シ又ハ將來締結スベキ特別ノ取極ノ定ムル所ニ依ル

第十一條

- (一) 本條約ノ規定ハ公ニシタルモノト否トテ問ハズ演劇脚本又ハ樂器入演劇脚本ノ公ノ上演及音樂的著作物ノ公ノ演奏ニ之ヲ適用ス
- (二) 演劇脚本又ハ樂譜入演劇脚本ノ著作者ハ原著物ニ關スル其ノ權利ノ存續期間内ハ其ノ翻譯物ノ許諾ナキ公ノ上演ニ對シテ保護セラルルモノトス
- (三) 本條ノ保護ヲ享有スルカ爲ニハ著作者ハ其ノ著作物ヲ公ニスルニ際シ其ノ公ノ上演又ハ公ノ演奏ヲ禁止スルコトヲ要セズ

第十一條ノ二

- (一) 文學的及美術的著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ無線放送ニ依リテ公衆ニ傳フルコトヲ許諾スル特權ヲ享有ス
- (二) 前項ニ掲クル權利ヲ行使スルノ條件ハ同盟國ノ國內法ノ規定スル所ニ依ル但シ右條件ハ之ヲ規定セル國ニ於テノミ效力ヲ有スベシ右條件ハ如何ナル場合ニ於テモ著作者ノ人格權ヲモ又協議調ハザル場合ニ於テ權限アル機關ノ定ムル公正ナル補償ヲ受クル著作者ノ權利ヲモ害スルコトヲ得ザルベシ

第十二條

翻譯、編曲及小説、讀物又ハ詩歌ト演劇脚本トノ相互ノ變作等ノ如キ文學的又ハ美術的著作物ノ許諾ナキ間接ノ轉用ガ同一ノ形體又ハ他ノ形體ニ於ケル右著作物ノ複製ニシテ主要ナラザル變更、増補又ハ省略ヲ爲シ且新ナル原著物タル性質ヲ具備セザルモノニ過ギザルトキハ本條約ヲ適用スベキ不法複製中ニ之ヲ特ニ包含スルモノトス

第十三條

- (一) 音樂的著作物ノ著作者ハ左ノ事項ヲ許諾スルノ特權ヲ有ス
 - 一 音樂的著作物ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ右著作物ヲ寫調スルコト

- 二 前號ノ機器ヲ以テ右著作物ヲ公ニ演奏スルコト
- (二) 本條ノ適用ニ關スル留保及條件ハ各國ニ關スル限リ其ノ國ノ國內法ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ベシ但シ此ノ種ノ留保及條件ハ之ヲ規定セル國ニ於テノミ效力ヲ有スベシ
- (三) 第一項ノ規定ハ溯及效ヲ有セズ從テ同盟ノ一國ニ於テハ千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ署名セラレタル條約ノ實施前又同日以後ニ同盟ニ加盟シ又ハ將來加盟スルコトアルベキ國ニ付テハ其ノ加盟ノ日前其ノ國ニ於テ適法ニ機械的器具ニ寫調セラレタル著作物ニハ之ヲ適用セズ
- (四) 本條第二項及第三項ニ基キ作成セラレタル寫調ニシテ右寫調ガ適法ニ非ザル國ニ利害關係人ノ許諾ナクシテ輸入セラレタルモノハ其ノ國ニ於テ之ヲ差押アルコトヲ得ベシ

第十四條

- (一) 文學的、學術的又ハ美術的著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ノ活動寫眞術ニ依ル複製、翻案及公ノ上映ヲ許諾スルノ特權ヲ有ス
- (二) 活動寫眞的製作物ハ著作者ガ著作物ニ獨創的性質ヲ與ヘタルトキハ文學的又ハ美術的著作物トシテ保護セララル若シ此ノ性質ヲ缺クトキハ活動寫眞的製作物ハ寫眞的著作物ノ保護ヲ享有ス
- (三) 活動寫眞的著作物ハ複製又ハ翻案セラレタル著作物ノ著作者ノ權利ヲ害セザル範圍内ニ於テ

一ノ原著作物トシテ保護セララルベキモノトス

- (四) 前諸規定ハ活動寫眞術ト類似ノ他ノ一切ノ方法ヲ以テ作りタル複製物又ハ製作物ニ之ヲ適用ス

第十五條

- (一) 本條約ニ依リ保護セララル著作物ノ著作者カ反對ノ證據アル迄真正ノ著作者ト看做サレ從テ同盟ノ諸國ノ裁判所ニ於テ偽作者ニ對シテ訴訟ノ提起ヲ許容セララルガ爲ニハ其ノ名ガ通例ノ方法ニ依リ其ノ著作物ニ表示セララルヲ以テ足ル
- (二) 無名又ハ變名著作物ニ關シテハ發行者ニシテ其ノ名ガ著作物ニ表示セラレタルモノニ於テ著作者ニ屬スル權利ヲ保全スルノ權能ヲ有ス右發行者ハ他ノ證據ヲ要セズシテ無名又ハ變名著作物者ノ承繼人ト認メラルベキモノトス

第十六條

- (一) 一切ノ偽作物ハ原著作物が法律上ノ保護ヲ享有スル同盟國ノ權限アル機關ニ於テ之ヲ差押アルコトヲ得
- (二) 右同盟國ニ於テハ著作物が保護セラレザルカ又ハ保護ノ止ミタル國ヨリ來ル複製物ヲモ差押フルコトヲ得

(三) 差押ハ各國ノ國內法ニ從ヒ之ヲ行フ

第十七條

本條約ノ規定ハ一切ノ著作物又ハ製作物ノ頒布、上演、展覽ヲ國內ノ立法又ハ警察上ノ措置ニ依リ許可シ、取締リ、禁止スルノ同盟各國ノ政府ニ屬スル權利ヲ何等害スルコトナシ該權利ハ權限アル機關之ヲ行使スベシ

第十八條

- (一) 本條約ハ本條約實施ノ際其ノ本國ニ於テ保護ノ期間ノ滿了ニ依リ既ニ公有ニ屬シタルモノニ非ザル一切ノ著作物ニ之ヲ適用ス
- (二) 尤モ著作物ガ從前認めラレタル保護ノ期間ノ滿了ニ依リ保護ノ要求セララルル國ニ於テ公有ニ屬シタルトキハ其ノ著作物ハ其ノ國ニ於テ新ニ保護セラレザルベシ
- (三) 右原則ノ適用ハ之ニ關シ同盟國間ニ現存シ又ハ將來締結スベキ特別條約ノ規定ニ從フベキモノトス此ノ種ノ規定ノ存在セザルトキハ各國ハ各自國ニ關シ右原則ノ適用ニ關スル方法ヲ定ムベシ
- (四) 前諸規定ハ同盟ニ新ニ加盟アリタル場合及保護ガ第七條ノ適用又ハ留保ノ拋棄ニ依リ擴張セララルベキ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十九條

本條約ノ規定ハ同盟ノ一國ノ法律ニ依リ一般ニ外國人ノ爲ニ定メラルベキ一層寛大ナル規定ノ適用ヲ求ムルコトヲ妨グズ

第二十條

同盟國政府ハ特別ノ取極ガ同盟ニ依リ付與セラレタル權利ヨリ廣大ナル權利ヲ著作家ニ付與スベキ限り又ハ本條約ニ牴觸セザル他ノ規定ヲ包含スベキ限り各國相互間ニ右取極ヲ締結スルノ權利ヲ留保ス現存ノ取極ノ規定ニシテ右條件ニ合致スルモノハ引續キ適用アルモノトス

第二十一條

(一) 「文學的及美術的著作物保護國際同盟事務局」ナル名稱ノ下ニ設立セラレタル國際事務局ハ之ヲ維持ス

(二) 右事務局ハ瑞西聯邦政府ノ管理ノ下ニ之ヲ置ク瑞西聯邦政府ハ其ノ組織ヲ定メ且其ノ事務ヲ監督ス

(三) 事務局ノ公用語ハ佛蘭西語トス

第二十二條

(一) 國際事務局ハ文學的及美術的著作物ニ付テノ著作家ノ權利ノ保護ニ關スル各種ノ報告ヲ蒐集

シ之ヲ編纂發行ス事務局ハ同盟共同ノ利益ニ關スル事項ヲ講究シ且諸政府ヨリ受領シタル書類ニ依リ同盟ノ目的ニ關スル諸問題ニ付佛蘭西語ヲ以テ定期刊行物ヲ編纂ス同盟國政府ハ經驗上必要ト認メラルベキ場合ニ於テハ合意ヲ以テ事務局ガ一又ハ二以上ノ他ノ國語ヲ以テ別版ヲ發行スルコトヲ許諾スルノ權利ヲ留保ス

(二) 國際事務局ハ文學的及美術的著作物ノ保護ニ關スル問題ニ付何時ニテモ同盟國ノ請求ニ應ジ其ノ必要トスルコトアルベキ特殊報告ヲ與フルコトヲ要ス

(三) 國際事務局長ハ其ノ所管事務ニ付年報ヲ作成シ之テ一切ノ同盟國ニ送付ス
第二十三條

(一) 國際事務局ノ經費ハ同盟國共同シテ之ヲ負擔ス右經費ハ新ナル議定アル迄ハ年額十二萬瑞西「フラン」ヲ超過スルコトヲ得ザルベシ右額ハ必要ナル場合ニ於テハ第二十四條ニ掲グル會議ノ一ノ全會一致ノ決議ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得ベシ

(二) 右經費總額ニ對シ各國ノ釀出割合ヲ定ムル爲同盟國及將來同盟ニ加入スル國ヲ六等ニ區分シ各等ノ釀出スベキ單位ノ筒數ノ比例ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一等 二十五單位
- 第二等 二十單位

第三等 十五單位

第四等 十單位

第五等 五單位

第六等 三單位

(三) 右系數ニ各等ノ國數ヲ乘ジ之ニ依リ得タル積ノ和ヲ單位數トシ之ヲ以テ費用總額ヲ除スベシ其ノ商ハ一單位ノ費用額ヲ示スモノトス

(四) 各國ハ其ノ加盟ノ際前記等級中其ノ列セラレンコトヲ求ムルモノヲ聲明スベシ尤モ爾後何時ニテモ他ノ等級ニ列セラレンコトヲ欲スル旨ヲ聲明スルコトヲ得ベシ

(五) 瑞西國政府ハ事務局ノ豫算ヲ調製シ及其ノ支出ヲ監督シ、必要ナル立替ヲ爲シ竝ニ他ノ一切ノ同盟國政府ニ送付スベキ毎年度ノ出納計算書ヲ作成ス

第二十四條

(一) 本條約ハ同盟制度ヲ完全ナラシムベキ改良ヲ加ヘンガ爲之ニ改正ヲ加フルコトヲ得
(二) 右ノ如キ問題及其ノ他ノ點ニ付同盟ノ發達ニ關係アル問題ハ同盟國ニ於テ順次開設スベキ會議ニ於テ該同盟國ノ委員之ヲ審議ス會議ヲ開設スベキ國ノ政府ハ國事事務局ノ協力ヲ得テ會議ノ準備ヲ爲ス事務局長ハ會議ノ議事ニ列席シ且討論ニ參加スト雖モ議決ニ加ハラズ

(三) 本條約ノ如何ナル變更モ同盟ヲ組成スル各國一致ノ合意ヲ得ルニ非ザレバ同盟ニ對シテ效力ナキモノトス

第二十五條

(一) 同盟ニ屬セザル國ニシテ本條約ノ目的トスル權利ノ法律上ノ保護ヲ確保スルモノハ其ノ請求ニ依リ加盟スルコトヲ得

(二) 右加盟ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ之ヲ通告スベク該政府ハ之ヲ他ノ同盟國ニ通告スベシ

(三) 右加盟ハ當然本條約ニ規定セル一切ノ條款ヘノ加入及本條約ニ規定セル一切ノ利益ノ享受ヲ伴ヒ且瑞西聯邦政府ガ他ノ同盟國ニ通告シタル後一月ニシテ其ノ效力ヲ生スベシ但シ加入スル國ニ依リ後ノ日ガ指定セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラズ尤モ右加盟ハ加入スル國ガ少クトモ一時翻譯ニ關シ第八條ニ代フルニ千八百九十六年「バリ」ニ於テ改正セラレタル千八百八十六年ノ同盟條約第五條ノ規定ヲ以テスルコトヲ欲スル旨ノ表示ヲ包含スルコトヲ得ベシ該規定ハ當該國ノ一又ハ二以上ノ國語ニ翻譯スル場合ノミニ關スルモノト當然了解ス

第二十六條

(一) 同盟各國ハ本條約ガ其ノ殖民地、保護領、委任統治地域、其ノ主權若ハ權力ノ下ニ在ル他ノ一切ノ地域又ハ宗主權ノ下ニ在ル一切ノ地域ノ全部又ハ一部ニ適用セラルル旨ヲ瑞西聯邦政府

ニ何時ニテモ書面ヲ以テ通告スルコトヲ得ベク之ニ依リ本條約ハ通告中ニ掲ゲラレタル一切ノ地域ニ適用セラルベシ右通告ナキトキハ本條約ハ右地域ニ適用セラレザルベシ

(二) 同盟各國ハ本條約ガ前項ニ定ムル通告ノ目的ト爲リタル地域ノ全部又ハ一部ニ對シ適用セラレザルニ至ル旨ヲ瑞西聯邦政府ニ何時ニテモ書面ヲ以テ通告スルコトヲ得ベク本條約ハ瑞西聯邦政府ニ宛テラレタル通告ノ受領後十二月ニシテ右通告中ニ掲ゲラレタル地域ニ於テ適用セラレザルニ至ルベシ

(三) 本條第一項及第二項ノ規定ニ從ヒ瑞西聯邦政府ニ對シテ爲サレタル一切ノ通告ハ之ヲ該政府ヨリ一切ノ同盟國ニ通知スベシ

第二十七條

(一) 本條約ハ同盟國相互ノ關係ニ於テハ千八百八十六年九月九日ノ「ベルヌ」條約及順次之ヲ改正シタル諸條規ニ代ルベシ從前實施セラレタル諸條規ハ本條約ヲ批准セサルベキ國トノ關係ニ於テハ其ノ適用ヲ保持スベシ

(二) 本條約ニ署名シタル國ハ從前爲シタル留保ノ利益ヲ引續キ保持スルコトヲ得ベシ但シ批准書寄託ノ際其ノ旨ノ宣言ヲ爲スコトヲ條件トス

(三) 現ニ同盟ニ屬スル國ニシテ本條約ニ署名セザルベキモノハ何時ニテモ本條約ニ加入スルコト

ヲ得ベシ此ノ場合ニ於テハ該國ハ前項ノ規定ノ利益ヲ享有スルコトヲ得ベシ

第二十八條

(一) 本條約ハ批准セラルベク其ノ批准書ハ遅クトモ千九百三十一年七月一日迄ニ「ローマ」ニ於テ寄託セラルベシ

(二) 本條約ハ之ヲ批准シタル同盟國間ニ於テハ右期日後一月ニシテ實施セラルベシ但シ右期日前ニ於テ本條約ガ少クトモ同盟ノ六國ニ依リ批准セラレタルトキハ本條約ハ右同盟國間ニ於テハ第六ノ批准書ノ寄託ガ瑞西聯邦政府ニ依リテ右同盟國ニ通告セラレタル後一月ニシテ及爾後批准スベキ同盟國ニ對シテハ各其ノ批准ノ通告後一月ニシテ實施セラルベシ

(三) 同盟ニ屬セザル國ハ千九百三十一年八月一日迄ハ千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ署名セラレタル條約又ハ本條約ニ加入スルコトニ依リテ同盟ニ加盟スルコトヲ得ベシ千九百三十一年八月一日後ニ於テハ該國ハ本條約ニノミ加入スルコトヲ得ベシ

第二十九條

(一) 本條約ハ其ノ廢棄ノ通告ノ爲サレタル日ヨリ一年ヲ經過スル迄ハ無期限ニ引續キ實施セラルベシ

(二) 右廢棄ノ通告ハ瑞西聯邦政府ニ之ヲ爲スベシ右廢棄ノ通告ハ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ其

ノ效力ヲ生スベク本條約ハ同盟ノ他ノ諸國ニ對シテハ其ノ効力ヲ存續スルモノトス

第三十條

(一) 本條約第七條第一項ニ定ムル五十年ノ保護ノ期間ヲ自國ノ法律ニ採用スル國ハ之ヲ瑞西聯邦政府ニ書面ヲ以テ通告スベク該政府ハ直ニ之ヲ同盟ノ他ノ一切ノ諸國ニ通知スベシ

(二) 第二十五條及第二十七條ニ依リ爲シ又ハ維持シタル留保ヲ拋棄スル國ニ付亦前項ニ同ジ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名セリ

千九百二十八年六月二日「ローマ」於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ伊太利王國政府ノ記錄ニ寄託スベシ認證謄本一通ハ外交上ノ手續ニ依リ同盟各國ニ送付セラルベシ

獨逸國

チエー、フォン、ノイラート
ゲオルグ、クラウエル
ウイルヘルム、マッテベン

エーベルハルト、ノイゲバウエル
マキシミアン、ミンツ
マックス、フォン、シリングス

奥地利國

ドクトル、オーグユスト、ヘッセ

白耳義國

伯爵デラ、ファイユ、ド、ルヴェルガン

ヴォーヴェルマン

「アラジル」合衆國

エフェ、ベツア、デ、ケイロス

ジェー、エス、ダ、フォンセカ、エルメス、ジュニオル

「ブリガリア」國

ジェー、ラデツフ

丁抹國

イー、シー、ダブルヴィー、クルーセ

グロー

「ダンチッヒ」自由市

ステファン、シエチコフスキ

西班牙國

フランシスコ、アルヴァレス・オッソリオ

「エストニア」國

カー、トーフエル

「フィンランド」國

エーミル、セテレ

ロルフ、テスレツフ

ジオルジエ、ウインターマン

佛蘭西國

ボーマルシエ

マルセル、プレーザン

ペー、グリユヌボーム・バラン

シアルル、ドルエ

ジョルジエ、マイヤール

アンドレ、リヴォアール

ロマン、コーリュ

アー、メッサジエー

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」

シドニー、チャプマン

ダブリュー、エス、ジャラット

エー、ジェー、マーティン

「カナダ」

フィリップ、ロイ

「オーストラリア」聯邦

ダブリュー、ハリソン、ムーア

「ニュー、ジーランド」

エス、ジー、レイモンド

「アイルランド」自由國

印度

ジー、グラハム、ディクソン

希臘共和國

エヌ、マヴルーデイス

「ハンガリー」國

アンドレ、ド、ホリー

伊太利國

ヴィットーリオ、シァロイヤ

エー、ピオラ、カセツリ

ヴィンチェンツォ、モレツロ

アメデオ、ジアンニーニ

ドメニコ、バローネ

エミリオ、ヴェネチアン

アー、ヤンノニ・セバスチアニーニ

マリオ、ギロン

日本國

松田道一

赤木朝治

「ルクセンブルグ」國

ブリュック

「モロッコ」國

ボーマルシエ

「モナコ」國

ソーヴァージュ

諾威國

アルノルド、レースタット

和蘭國

アー、ファン、デル、グース

「ポーランド」國

ステファン、シエチヨフスキ
フレデリック、ゾル

「ポルトガル」國

エンリケ、トリンダデ、コエリオ

「ルーマニア」國

テオドル、ソラコロ

瑞典國

エー、マルクス、フォン、ヴェルテンベルグ

エリク、リドフォルス

瑞西國

ヴァニエール

ドゥーブルヴェー、クラフト

アー、シュトロイリ

「シリア」國及「グレート、レバノン」國

ボーマルシエ

「チエッコスロヴァキア」國

ヴォイツェフ、マスニー

プロフェスプロフスールドクトル、カレル、ヘルマン・オタヴスキ

「テュニス」國

ボーマルシュ

宣言

下名ハ正當ノ委任ヲ受ケ千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ及千九百二十八年六月二日「ローマ」ニ於テ改正セラレタル千八百八十六年九月九日ノ文學的及美術的著作物保護ニ關スル「ベルヌ」條約第二十七條(二)ノ規定ニ從ヒ日本國政府ハ其ノ從前爲シタル留保ノ利益ヲ保持スルコト即チ右條約第八條ニ定メラルル著作物ヲ翻譯シ又ハ之ヲ許諾スル著作ノ特權ニ關シテハ千八百九十六年五月四日「バリ」ニ於テ署名セラレタル追加規定第一條第三ニ依リ改正セラレタル千八百八十六年九月九日ノ「ベルヌ」條約第五條ノ規定ニ引續キ準據スルコトヲ欲スル旨ヲ宣言ス

昭和六年(千九百三十一年)

月

日「ローマ」ニ於テ作成ス

通告

以書翰啓上致候陳者千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ及千九百二十八年六月二日「ローマ」ニ於テ改正セラレタル千八百八十六年九月九日ノ文學的及美術的著作物保護ニ關スル「ベルヌ」條約ハ其ノ日本國ニ實施セラレル日ヨリ及日本國ニ付爲サレタル留保ト同一ノ留保ノ下ニ下記地域即チ朝鮮、臺灣、樺太及關東州租借地ニ適用セラレベキ旨本官ハ本國政府ノ訓令ニ依リ同條約第二十六條(一)ニ從ヒ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

尙日本國政府ハ其ノ國際事務局經費分擔額ニ關シ千九百三十二年度ヨリ同盟國ノ第二等ニ代フルニ第一等ニ列セラレ度キ旨條約第二十三條(四)ノ規定ニ從ヒ希望致候

他方日本國政府ハ前記條約ガ日本國ニ實施セラレル日ヨリ音樂的著作物ノ公ノ演奏ニ關シ千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ改正セラレタル「ベルヌ」條約ノ批准書寄託ニ際シ千九百十年六月九日其ノ爲シタル留保ハ之ヲ拋棄スル旨聲明致候
本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

兩國全權委員ノ記名調印シタル條約ノ各條目ヲ親シク閲覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然
スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百六十六年明治三十九年四月二十八日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽
ヲ鈐セシム

御 名 國 璽

外務大臣 侯爵 西園寺公望 印

日米間著作權保護ニ關スル條約調印
ノ際該條約第三條ノ解釋ニ關シ兩國
全權委員ノ間ニ交換シタル書翰

(明治三十九年五月十一日官報)

以書翰致啓上候陳者本日帝國ト亞米利加合衆國トノ間ニ調印セシ著作權保護協約ノ第三條ニ關シ
將來ノ誤解ヲ防クタメ本大臣ハ該條中ニ用キラレタル「公ニセラルル」ナル文字ヲ帝國政府ニ於テ

ハ「始メテ公ニセラルル」ノ義ト解釋スルコト隨テ本協約ハ批准交換前兩締約國ノ一方ニ於テ公ニ
セラレタル著作物ヲ將來他ノ一方ニ於テ複製スルコトニハ適用ナキモノナルコトヲ言明致候 帝
國政府ハ貴國政府カ上記ノ解釋ニ同意スル旨ノ確答ヲ得ハ幸甚ノ至リニ御座候本大臣ハ茲ニ重テ
閣下ニ向ヒ敬意ヲ表シ候 敬具

外務大臣 伯爵 桂 太郎 印

亞米利加合衆國特命全權公使

ロイド・シー・グリスコム閣下

(譯 文)

以書翰致啓上候陳者本日亞米利加合衆國ト日本國トノ間ニ調印シタル著作權保護協約ノ第三條中
ニ用キラレタル「公ニセラルル」ナル文字ノ意義ニ關シ本日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致領承候本使
ハ茲ニ亞米利加政府ニ於テモ「公ニセラルル」ナル上記ノ文字ニ付大日本帝國政府ノ與ヘラレタル
解釋ニ全然同意スルモノナルコト及本協約ハ批准交換前兩締約國ノ一方ニ於テ公ニセラルル著
作物ヲ將來他ノ一方ニ於テ複製スルコトニハ適用ナキモノナルコトヲ及確答候右回答旁本使ハ茲
ニ重テ閣下ニ向ヒ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百五年十一月十日東京ニ於テ

亞米利加合衆國特命全權公使

ロイド・シー・グリスコム手記

外務大臣 伯爵 桂 太郎 殿

支那ニ於ケル發明意匠商標及著作権ノ

相互保護ニ關スル日米條約 (抄) (明治四十一年八月十三日條約第五號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ日米兩國全權委員ノ記名調印シタル清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作権ノ相互保護ニ關スル日米條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、外務大臣副署)

日本國皇帝陛下及亞米利加合衆國大統領ハ清國ニ於テ其ノ臣民又ハ人民ノ發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ヲ確保セムコトヲ欲シ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ日本國皇帝陛下ハ亞米利加合衆國駐劄特命全權大使正三位勳一等男爵高平小五郎ヲ亞米利加合衆國大統領ハ其ノ國務大臣代理ロバート・ベーコンヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其

ノ良好妥當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第二條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ文學及美術ノ著作物並寫眞ノ著作権ニ付清國內ニ於テ他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一程度ノ保護ヲ享受スヘシ

第三條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキ特許發明、登録意匠、登録商標又ハ著作権ヲ侵害シタルトキハ被害者ハ加害者所屬國ノ當該裁判所又ハ領事館ニ於テ其ノ國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ權利及保護ヲ享受スヘシ

第五條

本條約ノ適用上韓國臣民ハ日本國臣民ト、亞米利加合衆國ノ所屬地ノ人民ハ米國人民ト清國內ニ於テ同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

第六條

兩締約國ハ其ノ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル他國ニ關シ成ルヘク本條約ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ約ス

本條約ヨリ生スル一切ノ權利ハ兩締約國ノ所屬地及租借地ニ於テモ尊重セラルヘク右權利ノ侵

害ニ對スル法律上ノ救濟ハ加害者所屬國ノ當該裁判所ニ於テ之ヲ與フルモノトス

第八條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ明治三十九年五月十日以後公ニシタル文學及美術ノ著作物並寫眞ニシテ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキモノヲ本條約實施前清國內ニ於テ許可ナクシテ複製シタル他ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ右實施後一年ヲ限リ該複製物ノ發賣又ハ頒布ヲ廢止スヘキモノトス

第九條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換セララルヘシ
本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ十日ヲ經タル後韓國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ保護ニ關スル條約ト共ニ實施セララルヘシ

右證據トレテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治四十一年五月十九日即西曆千九百八年五月十九日華盛頓ニ於テ本書ニ通テ作ル

高 平 小 五 郎 印
ロバート・ベークン 印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十一年五月十九日亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ帝國全權委員カ亞米利加合衆國全權委員ト共ニ記名調印シタル清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百六十八年明治四十一年八月六日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御 名 國 璽

外務大臣 子爵 寺 内 正 毅

支那ニ於ケル發明意匠商標及著作權ノ

相互保護ニ關スル日佛條約 (抄) (明治四十四年五月二十日條約第三號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十二年九月十四日東京ニ於テ日佛兩國全權委員ノ署名調印シタル清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日佛條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシ

ム(總理、外務大臣副署)

日本國皇帝陛下及佛蘭西共和國大統領ハ清國ニ於テ其ノ臣民又ハ人民ノ發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ノ確保セムコトヲ欲シ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ日本國皇帝陛下ハ外務大臣正三位勳一等伯爵小村壽太郎ヲ佛蘭西共和國大統領ハ日本國皇帝陛下ノ闕下ニ駐劄スル佛蘭西共和國特命全權大使「コンマンドール・ド・ラ・レジオンドノール」勳一等桐花大綬章「オーギュスト・ジエラール」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第二條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ文學的及美術的著作物並寫眞ノ著作權ニ付清國內ニ於テ他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一程度ノ保護ヲ享受スヘシ

第三條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキ特許發明、登録意匠、登録商標又ハ著作權ヲ侵害シタルトキハ被害者ハ加害者所屬國ノ當該裁判所又ハ領事館ニ於テ其ノ國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ權利ヲ有シ同一ノ救濟ヲ受クヘシ

第五條

本條約ノ適用上韓國臣民ハ日本國臣民ト佛蘭西共和國ノ所屬地ノ人民ハ佛蘭西人民ト清國內ニ於テ同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

第六條

兩締約國ハ其ノ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル他國ニ關シ成ルヘク本條約ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ約ス

本條約ヨリ生スル一切ノ權利ハ兩締約國ノ所屬地及租借地ニ於テモ尊重セラルベク右權利ノ侵害ニ對スル法律上ノ救濟ハ管轄裁判所ニ於テ之ヲ與フルモノトス

第八條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ノ文學的及美術的著作物並寫眞ニシテ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキモノヲ本條約實施前清國內ニ於テ許可ナクシテ複製シタル他ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ右實施後一年ヲ限リ該複製物ノ發賣又ハ頒布ヲ廢止スヘキモノトス

第九條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換セラルヘシ
本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ十日ヲ經タル後實施セラルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治四十二年九月十四日即西曆千九百九年九月十四日東京ニ於テ本書日佛文各二通ヲ作ル

小 村 壽 太 郎 郎
オーギユスト・ゼラール 郎

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十二年九月十四日東京ニ於テ帝國全權委員カ佛蘭西共和國全權委員ト共ニ記名調印シタル清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ保護ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百七十年明治四十三年三月二日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈴セシム

御 名 國 璽

外務大臣 伯爵 小 村 壽 太 郎

清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル條約ノ調印ニ際シ下名ノ兩全權委員ハ各自國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ該條約第六條第一項ノ規定ハ韓國ニ適用ナキ趣旨ナルコトヲ茲ニ宣言ス

明治四十二年九月十四日東京ニ於テ

小 村 壽 太 郎 郎
オーギユスト・ジエラール 郎

清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護

ニ關スル日佛條約批准交換覺書

(明治四十四年五月二十日 報)

一昨十八日外務大臣ト本邦駐劄佛國大使トノ間ニ交換セル清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日佛條約批准交換覺書左ノ如シ

下名ハ清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權相互保護ニ關シ千九百九年九月十四日東京ニ於テ日本國ト佛蘭西國トノ間ニ調印セラレタル韓國ニ關スル宣言書附條約ノ批准書ヲ交換セムカ爲本日會合セリ

右交換ニ先タチ日本國外務大臣タル下名ハ正當ニ其ノ政府ノ委任ヲ受ケ左ノ宣言ヲ爲セリ
韓國臣民ハ日本國カ韓國ヲ併合シタル結果トシテ日本國臣民ト爲リタルニ依リ韓國臣民ニ關スル

前記條約第五條ノ規定及該條約附屬宣言書ハ已ニ存在ノ理由ヲ失ヒタルモノトス

佛蘭西共和國特命全權大使ハ正當ニ其ノ政府ノ委任ヲ受ケ右宣言ニ對シテ同意ヲ表シ且ツ兩國全權委員ハ雙方ノ批准書ノ良好妥當ナルヲ認メタル以テ該批准書ノ交換ヲ了シ本書ニ一通ヲ作ル

明治四十四年五月十八日東京ニ於テ

小 村 壽 太 郎 團
オーギスト・ジエラール 團

追加日清通商航海條約 (抄)

(明治三十七年一月二十日 官報)

朕明治三十六年十月八日清國上海ニ於テ 朕カ全權委員ト清國全權委員ノ記名調印シタル追加日清通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務大臣副署)

大日本皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ明治三十四年九月七日即光緒二十七年七月二十五日北京ニ於テ調印セラレタル最終議定書第十一條ノ規定ニ充分ノ效力ヲ與ヘムカ爲メ日清兩國間ノ通商關係ヲ簡易ニシ且増進セシムルヲ目的トシタル追加通商航海條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲メニ大

日本國皇帝陛下ハ公使館一等書記官從五位勳五等日置益總領事正六位勳五等小田切萬壽之助ヲ大清國皇帝陛下ハ工部尙書呂海寰太子小保前工部左侍郎盛宣懷商部左侍郎伍廷芳ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

第五條

清國政府ハ清國臣民カ日本國臣民ノ有スル登録濟商標ヲ侵害スルヲ禁遏スル爲メ必要ナル規則ヲ設ケ且誠實ニ之ヲ執行スヘキコトヲ約ス

清國政府ハ又清國語ヲ以テ編纂シ且特ニ清國人ノ使用ニ供スル爲メ作製セラレタル書籍冊子地圖及海圖ニ關シ日本國臣民ノ有スル登録濟版權ヲ保護スル爲メニ必要ナル規則ヲ制定スヘキコトヲ約ス

清國政府ハ登録局ヲ設置シ商標及版權保護ノ爲メ今後同國政府ニ於テ制定スヘキ外國商標及版權ノ登録ヲ爲スヘシ

日本國法律規則ノ定ムル所ニ從ヒ正當ニ登録セラレタル清國商標及版權ハ日本國ニ於ケル侵害ニ對シ同様ノ保護ヲ受クルコト勿論タルヘシ

本條ハ清國ノ安寧ヲ害セムトスル公刊物ノ著作者所有主若ハ販賣人タル日本國臣民又ハ清國臣

民ヲ法律ノ正當ナル進行ニ對シ庇護スルモノト解スヘカラス

第十二條

本條約ハ日本文漢文及英文ニテ調印スヘシ然レトモ將來ノ紛議ヲ避クル爲メ兩締盟國全權委員ハ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ノ相違アル場合ニハ其ノ相違ノ點ハ英文本文ニ照ラシテ之ヲ決定スヘキコトヲ約ス

第十三條

本條約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下之ヲ批准セラルヘク而シテ其ノ批准書ハ本日ヨリ六箇月以内ニ成ルヘク速ニ北京ニ於テ交換スヘシ
右證據トシテ兩國全權委員ハ本條約ニ署名調印スルモノナリ

明治三十六年十月八日即

光緒二十九年八月十八日上海ニ於テ之ヲ作ル

大日本國條約改訂委員

公使館一等書記官從五位勳五等

日 置 益 圃

總領事正六位勳五等 小田切 萬壽之助 圃

大清國條約改訂委員

工 部 尚 書 呂 海 寰

太子小保前工部左侍郎 盛 宣 懷 圃

商 部 左 侍 郎 伍 廷 芳

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル大日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕明治三十四年九月七日清國北京ニ於テ帝國外十箇國全權委員ト清國全權委員トノ間ニ記名調印シタル議定書第十一條ノ規定ニ基キ明治三十六年十月八日上海ニ於テ帝國全權委員ト清國全權委員トノ間ニ記名調印シタル追加日清通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百六十三年明治三十六年十二月九日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御 名 國 璽

外務大臣 男爵 小 村 壽 太 郎 圃

日本國暹羅國間通商航海條約 (抄)

(大正十三年十二月二十四日
條約 第十七號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十三年三月十日盤谷ニ於テ日本及暹羅兩國全權委員ノ署名調印シタル日本國暹羅國間通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務大臣副署)

日本國皇帝陛下及暹羅國皇帝陛下ハ幸ニ兩國間ニ存在スル友好親善ノ關係ヲ鞏固ナラシメムコトヲ欲シ且之ヲ達成スルニハ兩國間ニ從來存在スル條約ヲ改訂スルニ如カサルコトヲ確信シテ衡平ト互惠トノ原則ニ基キ右改訂ヲ完成スルコトニ決シ之カ爲日本國皇帝陛下ハ暹羅王國政府所在地ニ駐劄スル特命全權公使從四位勳三等矢田長之助ヲ、暹羅國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣代理白象一等勳章一トライドス・プラバンド一親王殿下ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ其ノ委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第十六條

兩締約國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ領域及屬地内ニ於テ法定ノ手續ヲ履行スルニ於テハ特許、商標、商號、意匠及著作權ニ關シ内國臣民又ハ最惠國ノ臣民若ハ人民ト同一ノ保護ヲ享受スヘ

第十九條

シ本條約ハ其ノ批准書交換ノ後七日目ヨリ、兩締約國間ニ締結セラレ又ハ存在スル千八百九十八年二月二十五日ノ條約及之ニ附屬スル同日附ノ議定書並ニ之ヲ補充スル一切ノ取極及協定ニ代ルヘク右ノ條約、議定書、取極及協定ハ同日ヨリ效力ヲ失フヘシ

第二十條

本條約ハ批准書交換ノ後七日目ニ實施セララルヘク其ノ日ヨリ十年間效力ヲ有スヘシ
右十年ノ期間滿了ノ十二月前ニ兩締約國ノ孰レモヨリモ本條約ヲ消滅セシムルノ意思ヲ通告セサルトキハ本條約ハ締約國ノ一方カ之ヲ廢棄シタル日ヨリ一年ノ期間滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有スヘシ

尤モ右廢棄ハ本條約第十九條ニ掲クル條約、議定書、取極又ハ協定ヲ復活セシムルノ效力ヲ有セサルコト明ナルモノトス

第二十一條

本條約ハ批准セララルヘク其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京又ハ盤谷ニ於テ之ヲ交換スヘシ
右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印ス

大正十三年三月十日即チ佛曆二千四百六十六年十二月十日、西曆千九百二十四年三月十日盤谷ニ於テ英吉利語ヲ以テ本書ニ通テ作成ス

矢田長之助(印)
トライドス、ブラバンド(印)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕大正十三年三月十日盤谷ニ於テ帝國全權委員カ暹羅國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國暹羅國間通商航海條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百八十四年大正十三年十一月十七日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

攝政名

外務大臣 男爵 幣原喜重郎

(大正十三年十二月二十四日)
外務省告示第八十二號

大正十三年三月十日盤谷ニ於テ調印セラレタル日本國暹羅國間通商航海條約ノ批准書ハ本年十二月二十二日盤谷ニ於テ之カ交換ヲ了セリ

(大正十三年十二月二十四日)
外務省告示第八十四號

大正十三年三月十日盤谷ニ於テ調印セラレタル日本國暹羅國間通商航海條約第一條及第十六條並同附屬議定書第二條ニ關シ兩締約國全權委員ノ間ニ左ノ通公文ノ交換アリタリ(抄)

來翰

以書翰啓上致候陳者工業所有權及著作權ノ保護ニ關スル我國政府ノ態度ニ付保障ヲ貴國政府ニ於テ要求セララルルニ對シ回答トシテ暹羅國ト日本國トノ間ノ條約案第十六條ニ充分ナル效果ヲ與ヘムカ爲暹羅國政府ハ同政府カ一切ノ外國人ニ對スル裁判管轄權ヲ回復シタル後出來得ル限リ速ニ工業有所權並文學的及美術的著作物ノ保護ニ關スル國際條約ニ加入スルノ意嚮ヲ有スルコト而シテ此等條約ニ依ルト他ノ方法ニ依ルトヲ問ハス右權利ノ保護ノ爲必要ナル措置ヲ執ルニ當リテハ同政府ハ別國民ヲ利スル爲ニ日本國國民ニ對シ差別待遇ヲ爲ササルコトヲ貴國政府ニ通知ノ爲本官ハ茲ニ陳述スルノ光榮ヲ有シ候
本官ハ茲ニ貴公使ニ對シ重テ敬意ヲ表シ候

千九百二十四年二月十九日盤谷外務省ニ於テ

外務大臣代理

トライドス、ブラバンド(署名)

日本帝國特命全權公使矢田長之助閣下

往 翰

以書翰啓上致候陳者暹羅國ト日本國トノ間ノ條約案第十六條ニ充分ナル效果ヲ與ヘムカ爲暹羅國政府ハ同政府カ一切ノ外國人ニ對スル裁判管轄權ヲ回復シタル後出來得ル限り速ニ工業所有權並文學的及美術的著作物ノ保護ニ關スル國際條約ニ加入スルノ意嚮ヲ有スルコト而シテ此等條約ニ依ルト他ノ方法ニ依ルトヲ問ハス右權利ノ保護ノ爲必要ナル措置ヲ執ルニ當リテハ同政府ハ別國民ヲ利スル爲ニ日本國國民ニ對シ差別待遇ヲ爲ササルコトヲ本月十九日附貴翰ヲ以テ我國政府ニ通知ノ爲本使ニ御通知相成敬承致候
本使ハ右ノ趣我國政府ニ傳達致候我國政府ハ暹羅國政府ノ右保障ニ満足ナル旨ヲ殿下ニ通知スルヲ得ルハ本使ノ欣幸トスル所ニ有之候
本使ハ茲ニ殿下ニ對シ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十四年二月二十四日盤谷日本帝國公使館ニ於テ

日本帝國特命全權公使 矢田長之助(署名)

暹羅國外務大臣代理

トライドス・ブラバンド親王殿下

日本帝國「ラトヴィア」共和國間通商航海

條約(抄) (昭和三年八月三十日
條約第四號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十四年七月四日獨逸國「ベルリン」ニ於テ帝國全權委員ガ「ラトヴィア」國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本帝國「ラトヴィア」共和國間通商航海條約ヲ批准シ茲ニ議定書ト共ニ之ヲ公布セシム(總理、外務大臣副署)

日本國皇帝陛下及「ラトヴィア」共和國大統領ハ兩國ノ間ニ既ニ存在スル通商關係ヲ一層容易ナラシメ且之ヲ擴張センコトヲ希望シ之ガ爲通商航海條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

日本國皇帝陛下

獨逸國駐劄特命全權大使 本多熊太郎

「ラトヴィア」共和國大統領

外務大臣「ジグフリズ、エー、マイエロヴィツチ」

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第二十一條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ發明特許、商標及意匠並ニ文學的及美術的著作物ニ關スル著作權ニ付夫々ノ國ノ法令ガ自國ノ臣民又ハ人民ニ現ニ許與シ又ハ今後許與スルコトアルベキ所ト同一ノ權利ヲ他方ノ領域内ニ於テ有スベシ

第二十二條

「ラトヴィア」國ハ日本國臣民ニ屬スル一切ノ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニシテ「ラトヴィア」國ヘノ讓渡前ノ露西亞國ノ領域ノ何レカノ部分ニ於テ有效ナリシカ又ハ露西亞國ニ於ケル戰爭若ハ革命ナカリセバ有効ナリシナルベキモノヲ承認シ及保護スルコトヲ相互條件ノ下ニ約シ且右權利ノ更新ノ爲適當ナル期間ノ延長ヲ許與スベシ
前記規定ニ付テハ「ラトヴィア」國ハ權原ノ證明及「ラトヴィア」國ニ於ケル右權利ノ登録ヲ要求スルコトヲ得ルモノトス

第二十六條

本條約ノ規定ハ締約國ノ一方ニ屬シ又ハ其ノ管治スル一切ノ地域及屬地ニ適用セラルベシ

第二十七條

本條約ハ批准セラルベク且其ノ批准書ハ「ベルリン」ニ於テ交換セラルベシ

本條約ハ批准書交換ノ日ノ後十日ヨリ實施セラルベク且締約國ノ一方ガ本條約ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告シタル後六月ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有スベク其ノ後ハ效力ヲ有セザルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

千九百二十五年七月四日「ベルリン」ニ於テ本書ニ通テ作成ス

本 多 熊 太 郎 (印)
ゼット、エー、マイエロヴィツチ (印)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕大正十四年七月四日獨逸國「ベルリン」ニ於テ帝國全權委員ガ「ラトヴィア」國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本帝國「ラトヴィア」共和國間通商航海條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十八年昭和三年七月七日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御 名 御 璽

外務大臣 男爵 田 中 義 一

波蘭國ニ關スル條約(抄) (大正九年一月十日
條約第二號)

朕欄密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正八年六月二十八日佛蘭西國「ヴェルサイユ」ニ於テ帝國全權委員ノ亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及波蘭國ノ全權委員ト共ニ署名調印シタル波蘭國ニ關スル條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務大臣副署)

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國

主タル同盟及聯合國タル右諸國ヲ一方トシ

波蘭國

之ヲ他ノ一方トシ

同盟及聯合國ハ其ノ武力ノ成功ニ依リ從前不正ニ剝奪セラレタリシ波蘭國ノ獨立ヲ回復シタルニ因リ

而シテ露西亞國政府ハ千九百十七年三月三十日ノ布告ヲ以テ獨立國タル波蘭ノ再興ニ同意シタルニ因リ

而シテ舊露西亞帝國ノ版圖内ニ於テ住民ノ多數ガ波蘭人タル地方ニ對シ目下現實ニ主權ヲ行使スル波蘭國ハ主タル同盟及聯合國既ニ獨立國及主權國トシテ之ヲ承認シタルニ因リ

而シテ舊獨逸帝國ノ或地域ハ同盟及聯合國ト獨逸國トノ間ニ締結シタル平和條約(波蘭國亦署名國ノ一タリ)ニ依リ波蘭國領土ノ内ニ編入セラレベキニ因リ

而シテ右平和條約ノ規定ニ依レバ未確定ノ波蘭國境界ハ今後主タル同盟及聯合國之ヲ決定スベキニ因リ

一方ニ於テ亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國ハ國際團體ノ一員タル獨立國及主權國トシテ前記境界内ニ成立スル波蘭國ニ付其ノ曩ニ與ヘタル承認ヲ確認シ且獨逸國ト締結シタル前記平和條約第九十三條ノ規定ノ履行ヲ確保スルコトヲ希望シ

他ノ一方ニ於テ波蘭國ハ其ノ制度ヲ自由及正義ノ原則ニ合致セシメ且其ノ主權ノ下ニ立ツ地域ノ住民ニ對シ確固タル保障ヲ與ヘムコトヲ希望スルニ因リ

之カ爲締約國ハ左ノ如ク代表セラレ

(各國委員氏名省略)

右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第十九條

波蘭國ハ本條約實施後十二月以内ニ第一附屬書ニ列記スル國際條約ニ加盟スルコトヲ約ス

波蘭國ハ第一附屬書ニ列記スル國際條約ニ代フル爲本條約實施後五年以内ニ國際聯盟理事會ノ承

認テ經テ締結セラルル新條約ニ加盟スルコトヲ約ス

波蘭國政府ハ第二附屬書ニ列記スル國際條約ノ何レカ一又ハ其ノ兩者ニ加盟スルコトヲ欲スルヤ否ヤヲ十二月ノ期間内ニ國際聯盟事務總長ニ通告スルコトヲ約ス

波蘭國ハ第一附屬書ニ列記スル最後ノ二條約ニ加盟スル迄相互條件ニ依リ同盟及聯合國國民ノ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ヲ有效ナル方法ニ依リ保護スルコトヲ約ス此等條約ニ加盟セザル同盟及聯合國ニ對シテハ波蘭國ハ該國ト之カ爲雙務的ノ條約又ハ取極テ締結スル迄同一ノ條件ニ依リ引續キ有效ナル保護ヲ與フルコトヲ約ス

波蘭國ハ第一附屬書ニ列記スル其ノ他ノ條約ニ加盟スル迄同盟及聯合國國民ガ該諸條約ニ依リ享有スヘキ利益ヲ右諸國民ノ爲ニ確保ス

波蘭國ハ相互條件ニ依リ同盟及聯合國國民カ波蘭國ノ領土ト爲リシ一切ノ地域内ニ於テ領土變更前所有シタル工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニシテ效力ヲ有シ若ハ戰爭ナカリセバ效力ヲ有スベカリシモノヲ承認シ且之ヲ保護スルコトヲ約ス波蘭國ハ之ガ爲獨逸國トノ平和條約第三百七條及第三百八條ニ定メタル期間ノ延長ヲ許諾ス

第二附屬書(抄)

其ノ他ノ條約(抄)

千九百十一年華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約

千九百八年十一月十三日柏林ニ於テ改正シ千九百十四年三月二十日「ベルヌ」ニ於テ署名ノ追加議定書ニ依リ補足セラレタル文學的美術的著作物保護ニ關スル千八百八十六年九月九日ノ「ベルヌ」條約

第二十一條

波蘭國ハ露西亞國ノ公債其ノ他公ノ負擔ニシテ主タル同盟及聯合國ト波蘭國トノ間ノ特別條約ニ依リ波蘭國ニ割當テラルル部分ニ付其ノ責ニ任ズルコトヲ約ス該條約ハ上記諸國ノ任命ニ係ル委員會之ヲ準備スベシ委員會ニ於テ意見ノ一致ヲ見ザルトキハ速ニ爭議ヲ國際聯盟ノ仲裁ニ付スベシ

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ批准ヲ要ス本條約ハ獨逸國トノ平和條約ト同時ニ之ヲ實施ス

批准書ノ寄託ハ巴里ニ於テ之ヲ爲スベシ

政府カ歐羅巴以外ノ地ニ在ル國ハ巴里ニ於ケル自國ノ外交代表者ニ由リ佛蘭西共和國政府ニ對シ其ノ批准濟ノ旨ヲ通報スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ成ルベク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス

批准書ノ寄託ニ付テハ之カ調書ヲ作成スベシ
 佛蘭西國政府ハ批准書寄託調書ノ認證謄本ヲ各署名國ニ送付スベシ
 右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス
 千九百十九年六月二十八日「ヴェルサイユ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之テ佛蘭西共和國ノ記錄ニ寄
 託保存ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各署名國ニ交付スベシ

(各國委員氏名省略)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
 朕大正八年六月二十八日佛蘭西國「ヴェルサイユ」ニ於テ帝國全權委員ノ亞米利加合衆國、英帝國
 佛蘭西國、伊太利國及波蘭國ノ全權委員ト共ニ署名調印シタル波蘭國ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ
 之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百七十九年大正八年十一月七日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐
 セシム

御 名 御 璽

外務大臣 子爵 内 田 康 哉



